WASON
HQ
1104
J74

Jun. 1899

no. 489

明治三十二年六月十日

女學雜誌

第四百八拾九號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百八十九號目次

◎社說
新日本の武者何處にある
秋生兒を憫れむ
續海舟餘波（二）
豈唯閨閥の男子のみならんや
萬國婦人平和會の連合
栃木縣下廢娼運動
足尾銅山鑛毒處分要求の陳情（田中正造）
別辭（櫻井歐村）

◎講義
涙の文學（無識庵靜淵）

◎家庭
家庭のほゝえみ
妻の不平

◎隨感
風光紫菲多し
忍ぶ草
小人
大磯だより

◎雜錄
鬼面百相（青柳有美）
いかづち物語（二）（久保ゐの吉）
四つの折（澁谷紫莞）
四の流（露草軒潜恨）

◎新刊書
話のおぢさん（漣氏の新著（磯村））。星月夜（加雪）
新小說第六卷

◎寄書
海舟餘波を讀む（本多庸一）

◎時事
栃木縣廢娼の建議（足利友愛義團）
喧々怪事、小幸田子の海外留學（有美）
新流行の夏帽子（樂石生の樂評一變す（渡邊
文三郎氏の獨唱風（劇場大道具の批評（錦給
ヲ色合再建せんとす（明治音樂會の新評奇）
樂聲會

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるゝものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹冊定價	拾錢
	半年分定價	壹圓拾錢
	一年分定價	貳圓拾錢
	（內國無郵稅）	
	代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送すゝとも可有之事◎但し其節は總て一冊十錢の割にて計算し追て請求可致事	
廣告料	一行（廿七字詰）一回	前金拾錢
	同 三回以上	一割引
	同 六回以上	二割引
送金	送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるゝ人は總べて一割增にて計算せられたし	

明治三十二年六月九日印刷
明治三十二年六月十日發行
發行兼編輯人 巖本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地 發行所 女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 印刷所 株式會社秀英舍第一工場（電話本局十九番）

◎婦人科◎小兒科專門 至誠醫院治療之趣旨

本邦婦女の特性として温柔靜肅を旨とし閨門深く垂れ籠めて猥りに人に接はらぬを良家の庭訓となすが故に男子とは席を同ふし語を交すをさへ道に缺くるものとし畏るべき病症殊に子宮疾患の如きは醫に就くを羞ぢ厭ふが爲めに唯密かに心を痛め身を苦しめ終には人生の快樂を殺ぎ子孫の繁榮を遮ぎり天壽を夭折するもの尠なからず豈嘆かはしき至ならずや 本院長も又是國風の間に人となり深く此弊を憂へ之を救ふの道にもがなと慨然婦女の分として妄りに身を挺んて尊榮にして深邃なる醫學に志し研鑽多年その業を卒へ爾來又た數年東西の諸大家に就きて特に婦人科を研究して刀圭に從事する所以のものは己れ女性に生れたるの天職たるを信じて呢み近づき易く打ち解け語らひ易き同胞姉妹の疾患に對しては能く貞淑の美德を傷けず愼重懇切に治療し得るは竊かに諸大家に讓らざるの特技あるを期す又小兒科にありては第一の慈母として狎れ懷き易きが故に幼兒をして畏ぢ怯れ失聲啼泣せしむるが如きことなく安靜に診療を施し得るを以て誤診姑息等の弊なしとす是れ 本院長が起ちて世の同胞に告ぐる所以なり

院長女醫 鷲山彌生 診察 本院午前 分院午後

本院麴町區飯田町四丁目九番地
分院京橋區宗十郎町一番地
至誠醫院

女學雜誌

明治三十二年六月十日發兌

第四百八拾九號

社説

新日本の武者何處にある

默軒

綱紀弛み、秩序紊亂して、而も警察の威嚴地に墮つるに及んでは、抑そも何を以て、德敎を維持せん。公心萎靡して振わず、社會、制裁の力を失す。笛吹けども躍らず、哀しめども胸うたず、先覺預言の痛叫、將た何の甲斐あらんや。賄賂公行し、詐僞踵を接し、士人廉恥を棄てて唯だ錢を愛しめども、人聞きて奇しとせす。素と之れ忍ぶ可らざるも尙ほ或ひは忍ぶべし。彼の獸慾破貞の輩、暴力を用いて純潔の女德を壓せんとするものに至ては、女性皆な腸を斷つ、勇武正義の大丈夫が亦斷じて容赦せざるべき大惡德にあらずや。

稚兒の手をねぢり、六尺の孤を欺むくと聞かば、俠骨奮然として起たざるを得ず。寡婦をたぶらかし、老翁を押倒すと聞かば、丈夫何すれぞ默するを得んや。特に悲しむ、可憐楚々の婦女子を壓倒し、其力の及ばざるに乘じて其の純潔を傷つけ、吾が動物性を滿さんが爲に、無邪氣なる天女の淑德を破らんとするもの、名けて男子と云へるものの間に出沒すと聞きて之を棄置くことを得る乎。德敎振わざるは德敎の罪か、警察振はざるは警察の罪か、男子之を聞棄にせば則わち大丈夫の罪なり。今や、明治の勳爵士猛然として起たざる可らず。

新聞紙傳ふらく、都門所々に白袴隊なるものの出沒す、良家の子女多く傷つけられて而も自から言わず、禍の及ぶ所ろ驚ろくべきものあり』と。吾人は、半ば其事實を疑がひ、半ば其疑ひを抱く。近日、萬朝報新聞、大石某の獸行を記載するもの丶如き、亦た驚ろくべき怪事にあらずや。

夫れ、渠の如き多少知名の輩を制裁するには、亦自から法あり。何んとなれは、渠輩は出奔して影を沒すことの出來ざるも

のなれば也。但夫れ所謂ゆる白袴隊一流の輩を制するに至ては、別に一種の變法なかる可らず。時正に新らしき青年團の勃立を要す。吾人は、今にして明治のナイトたる武者の奮然として起り立つべき機會たるを信ず。

吾人曰く、今の婦女子は護身用の或る物を懷帶すべし、無禮なる男子に對して容赦なく處置すべしと。之れ、獸行の男子を警醒する唯一の方にして、亦、男性の獸態を壓倒する變法の慈悲なり。

前年、米國の或る村落にて、某男子、一少女を强姦せり。村民中氣骨ある丈夫群集して忽ち彼の男子を叩き殺せり。而して、警察官默許し、社會陰に同情を表し、綱紀自から振へりとぞ。斯の如き是れ法治國內の活手段たらん歟。

私生兒を憫れむ

鷗村

惡むべきは淫奔私通の親。憫れむべきは、彼の私生兒なるかな。生れて、親らしき親なく、終生、出處を曖昧にす。恥辱一代にして止まず、萬古、系圖の上に遺る。何を以て、此の辱かしめありや。只だ其の親たるものの不埒なる故に因る。親か、鬼か、寸時の誘惑によつて百年の不幸を來す。思はざるも甚はだし、慘酷も亦甚はだしひ哉。

渠等不屆なる男女を惡む切なるに隨がつて、此の可憐なる兒女を憫れむの情一入切なり。此の輩、何の罪かある。毫末も關かり知るなき也。無邪氣にして生れ、正直に發育し、稍や物事を知り初むるに及んで、只だ人の侮蔑を耳く。必竟、何によつて斯の如くなる。但だ其の惡魔的父母あるによつて乃はち斯の如し。

余は思ふ、外國人が往々設立する『不明兒女收養場』の如き計畫は、太はだ當を得て極めて仁慈の事業たるとを。其の組織は慈善者の寄附金をもて成り、其管理は、情けある保姆敎育者に依て行はる。門前適宜の方法を備へて、夜間、親知らぬ棄子を收養するの途を用意し、之に適宜の名號を附して院內に鞠育す。(かの無名の親は、此の新らしき名によりて其子を記臆し、陰に貢獻寄附の手段もあるべし。之れ切てもの罪亡ぼし、又、切てもの慰藉ならん)。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

凡そ斯の如き慈善は、淫奔を奨勵するに等し」と言ふものあり。此は、議論にして、人情にあらず、推理にして、事實にあらず。蓋し、思へ、淫奔の奴隷、豈に初より其の所產の子に付て當惑するものならんや。其の誘惑せらるるに當ては、一切夢中に彷徨し、毫も始末に付て顧みることなし。偶たま不義の懷胎あるに至つて初めて驚ろき、迷夢稍や覺めて反つて第二の惡念を工夫するのみ。左れば、もし私生兒制裁の法嚴密とならば、暗中殺兒の風只だ大に增さんとす、淫奔を防ぐべき効力は殆んど有ること無けん。

故に、一方に淫奔の風增し、他方に私生兒の取締嚴そかとなるときは、困しむものは、母と私生兒とのみ。巨惡尤とも惡むべき男子は、舌を吐いて逃れん、不埓無上の事にあらずや。万朝報記者の今ま之を酷擊しつつあるは、尤とも痛快の事とす。

左れば思ふ。他方に私生兒に對する制裁の彌よ嚴正たらんとすると同もに、希はくは、『不明兒女收養場』に類する組織の創立せられ、少としくは、可憐なる兒女の前途に好涙を與ふるものの增さんことを。

續海舟餘波（二）

◎經濟の事は、海舟先生尤とも苦心を凝められたる處ろで、亦密かに自任して居られた所ろであるが、何に致せ、磊落粗放にして、万事大ザッパに見える先生の事ゆえ、斯樣なる慘澹緻密の經營があることは、一寸と外見に受取れぬ風であつた。然し、先生の經濟は昔しからの事と見へて、曾て富田鐵之介氏の談されたるに、四十年前、先生の塾にゴロ〳〵集まつて居た書生は、當時兵法を習ふと云ふ目的で來學して居たから、隨分亂暴も甚だしく、塾內の取締も粗末極まりたることであつたが、當時塾頭をして居たる某が、富田氏への話しに「勝先生は、兵法家と云ふよりも經濟家だ、吾々は其の經濟を學ばねば成らぬ」と言つた相だが、當時、富田氏などは、何を言ふことかと奇躰に感じて居られたと云ふことである。斯樣に先生の經濟は經濟らしからぬ經濟で、所云ゆる沒經濟の經濟家であつたこと、數十年前よりの特色と見へる。先生曾て曰はるる樣、『經濟家と云ふと、直ぐ經濟の點から着眼するから少しも分らぬ、經濟以外から見ねば經濟は分らぬものだ』と

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

言はれしは、眞とに先生の財政を自から評せられたものと言つても、宜しからふと思はれる。

◎『ワシは、儉約、儉約と云ふとが、大嫌いだ』と言はれて、如何にも、金ばなれが善く、毎日々々、人に遣らるゝ丈でも中々の事である。其上、見舞物、祝、香奠の類には、キビ〳〵するほど奢らるゝ僻で、明治三十年などは、香奠だけが三千兩だと言はれしを承わつたともある。「ケチ〳〵すな」とか、「シミッタレな奴だ」などと屢ば人を痛罵せらるゝ程あつて、其邊には、五分と透のない、氣の着き過ぎるほどの錢遣ひであつたから、日々の物入は莫大な事と思はれたるが、日計足らずして、歳計餘りありとでも言ふものか、翻がへつて後から見て、數年で總ぐくりを仕て見て、意外なる出費の少なきに驚ろくと云ふ遣り方である。其邊の活手段は、眞とに巧妙極りないことであつた。

◎二十圓、十圓、五圓、一圓、五十錢と云ふやうな包を作つて、突作の間に、人に投げて遣ると云ふやうなともあつたらしい。間髪を入れざる時の用意であつた。又、壯士、半乞食の類には、十錢より五十錢位ひ、必らず與へられた。寄附金を乞ふものに、多少與へられぬとは無つた。ミス〳〵欺すのだと知りつゝ、十圓二十圓を與へらるゝとも屢ばあつた。曾て江州の塚本定助氏が、金包を持參し、「先生が餘り多く人にお與へなさるから、私も口入を願ひたいと思つて持參しました」と言つて、無理に置て行れた相な。先生の例の口調で『シミッタレ翁が、五兩も置て行つたかと思つたら、五十兩置いてつたよ。コリヤア、うまいと思つてると、すぐ、無なつて仕舞つた』。塚本氏の事は、先生が口を極めて賞贊せられたるとであつたが、同氏の如く折々出入せらるゝ人は、如何に大勢が先生から金を取るかの事實を見て、如何にもお氣の毒になつて、禁へられぬとであつたらふ。夫にも係らず、御自身一己の物入と言へば、切つめ切つめ、少しでも、奢りと見ゆるものはなかつた。此の双方の事實を熟知して居るものに取ては、屢ば驕然として金をねだりに來る人の樣姿が如何にも情けなく、先生が德川氏の金でも自由にして、自分の榮耀にして居らるゝ上は前をはねるかの如き躰裁で大言を吐く人を見ては、人間の覺悟も、これほど天地の差を爲すものかと、毎度慨歎したとであつた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎曾て、△△氏が、◎◎伯の處に行つて、先生の話の出た時に、「勝サンも、大相の物入ヂヤろふが、月に二三千圓も、德川から出ゆのかエ」と問はれた相な。「ドウして〳〵、夫ならば結構だが、持出し斗りで、實に氣の毒だ」と言つて歸られた相なが、◎◎伯ほどに、先生に懇意なる人でさへ、近日迄、斯樣な誤解をもつて居られた。左れば、德川氏の舊臣等が、先生ひとり德川氏の經濟を自由にすると思ひ込み、「隨分取つてやつても善いのだ」などと、自分勝手の理窟をつけて、屢ば强請に來たのは寧ろ尤もである。中には、面前、斯樣な惡口をつくものもあつた相なが、先生の調子で『ソウヨ、大へんもふかるよ、奢つてやらふか』などと云ふ挨拶で、曾て辯解せられしとも無つたと聞くが、其帳簿の明白にして、出入收支に苦心を重ねられしと、驚ろくべきほどである。明治二十年德川氏に出されし會計帳の寫を見るに、冒頭數葉の處に、子息小鹿君の爲に貯蓄されし金數千兩をすら出して仕舞われし計算が分る。又、堂々たる多くの貴紳名家、もしくは豪傑先生達が、如何に多く借り倒しをせられたるかも分る。然し先生の述懷は斯ふであつた、『これ位にして置ても、死んでから

後は、まだ色々に言ふものだから、油斷はならんよ。山岡の末の樣に、德川氏に寄らせては成らんから、夫で、勝家の財政にもコンナに苦心をしてるのだ。』

◎島田三郎君が曾て言われし如く、『今にして、勝と云ふ人の偉人たるとを知る。明治二十八年、戰勝の餘威に誇り、償金二億万兩が取れると言つて皆んなが大悅びの時に、勝さんはひとり言われた。「日本の財政は之からが困るのだ、俄かに身代が殖えて、夫で家を潰すのと同じとだ」と。然るに、其後着々として當り、當時一席の痛罵として聞しとが、今ま明らかに預言となり舛た』と追賛せられしは、眞とに御同意で、當時、會社熱火の燃ゆる如く起り、株券の價格天にも上らん勢にて、人々一擧して、數十万數百万の身代を增したと云ふ大評判の間に、冷然世の成り行を洞察して、知人、關係者を病床に引き、數年の後、經濟界に大困難、大沒落の時來るとを確言して、大いに警戒せられしとは、今尚ほ多數の人の記臆せらるゝ所であろふ。

◎先生を評して、「山師」と云ふものが隨分あるが、其實、先生ほど、山師を嫌われた人は多くあるまい。あれは山師かと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

言われる時ほど、冷調で、輕侮の容姿をされるとは少ない。山と云ひ、僥倖と云ふとが大嫌ひで、萬事の用意は、所謂ゆる權現樣の流義であつた。周密、謹嚴、用心堅固の態度で、之と同時に大膽不敵、至誠一擲の勇猛心を、如何にも麗わしく調和して居られた。

豈唯閨閥の男子のみならんや

閨閥は女學の敵、大丈夫の禁物なり。名士之にかぶれ、一代之に溺れんとし、稍や氣骨ありなど評判せらるゝものすら、尙ほ其の不快を覺えざるもの多きよしに聞きて、痛歎亦た禁へずと雖ども、帝國の男子豈に皆な斯る軟骨才子のみならんや。近頃ろ吾人幾度びか丈夫の腑甲斐なきに慨歎するにつれて、端なく前月閨閥論起草の折の反響を憶ひ起し、世人が數ば誤解する福澤門下の士に、意外にも非閨閥の男子多きとを知りて、欣喜止む能はず。茲に當時の批評文一則を掲げて讀者に示すものは、本號餘りに男子の爲に醜聞を重ねて、編者

自己の心中甚だ不快なれば也。以て岑々たる頭痛の爲に一淸冷劑を服せんか、

拜啓最早御覽濟の事とは存候共今朝見當り候儘慶應義塾學報中貴社の論文に對する評論丈切取り御送附申上候一片の同情御酌取被下度候

三十一年十二月十六日　　馬關愛讀者

之れ正に慶應義塾出身の士なり。而して、其の封送せられたる切拔（慶應義塾學報第十號）左の如し、

◎閨閥女學の敵（女學雜誌第四七七五號）

朝に絕大の產聲を以て生れ、夕に寂さして逝ける「世界之日本」あり、昨は平民主義を說いて熱淚沸々、今は藩閥者の隷屬さ身を下し、好餌を追ひて走る『國民之民』あり、流石に忠實堅忍の『早稻田文學』も七年にして終りを告げ、雜誌界の爾條落寞其極に達したる中に於て、十年女學の爲めに健闘して倦まず撓まざる『女學雜誌』が、年さ共に益々銳氣を增し來るを見て、われは數からず心を强うする也、殊にその近刊載する所の一篇の如き、彼が獨特の筆法さ議論さを味ふに足るべし、彼は初めに閨閥なる意味を說いて、閨閥さは閨門の閥也、細君の緣邊に寵信を掛け其の手蔓により立身出世せんさする者を云ふさ罵り其の實例の一さして

試みに帝國大學をもて一例させん此大學は學文の淵叢さ稱し日本第一の學者の集り居る所さ評判すればなり然るに其卒業生が赤門を出てて金ボタンの洋服を脫がんさする最初の理想の一は速かに閨閥の緣しに取つき願くは何々爵又は何々紳商さ言はるゝ程のお流れに預りたしさ慾望するにありさぞ……

あゝゝ豈に獨り赤門の先生方のみならんや、滔々たる天下の靑年は、自家の品格

を一擲し去りて、その所謂閨閥の下に不義の出世を求めんとす、然れども、憫むべし閨閥の家庭は決して幸福圓滿なる能はず、男子は細君を見ること財布踏み臺の如く、女子は亭主に對して放慢侮辱の行ひを敢てす、出世貴き乎、和樂價なき乎、如何に卑陋なる男と雖も、深夜その不愉快を思ひ廻はしては、一生の誤りを悔悟すへき也、されど未だ手を燒かざるの時は之を以て天晴名案と心得相率ゐて此魔道に陷いり、引きて女學に大害を與ふ、女學子は之を痛嘆して曰く

若し世上の男子に殊勝の心掛ありて女を撰ふに其學と德とを標準にするやうならば天下の女子競つて其品德を修め女風之より改まり女學之より起るべきに悲しい哉今の男子は前述せる卑屈根性にて初めより此樣なる心掛もなく但閨閥の娘ならば其學も德も問ふ所にあらず希くは容貌丈げに美ならんと願ふ

何ぞ其筆法の鋭利にして痛快なるや、われは女學子が此苦言を爲すの時、胸中万斛の熱淚ありしなるべきを思ひ、坐ろに同情を寄せざるを得ず、アヽ世豈に腰ヌケ男子の橫行に任すべけんや、氣節あり品位ある眞男兒が地の一角に滿身の英氣を養ひ、健鬪の用意しつつあるを思ひて、聊か安んずる所あれや。

萬國婦人平和會の連合

和蘭女皇陛下を會頭とせる萬國婦人平和會は、吾帝國の婦人に對して同盟連合を促がし來れり。此の會の主旨、曩に魯國皇帝陛下の提議より成れる萬國平和會議和蘭海牙府に開かるるの好機に際して、世界の婦女子が平和に對する熱望同情を表明し、以て該會議の結果をして彌よ良好ならしめんとを要するにあり。故に帝國有志の婦人、女學會、女學校等大抵一齊に贊同の意を表し、茲に連合の議を決定して、迅速なる回答を致せしと聞く。之れ極めて適切の處置たりしのみならず、吾國多數の婦人が斯の如く俊敏に一致同盟の運爲を了せしは、眞とに近來の快事と云ふべし。曩に婦人矯風會は、其世界の連合に加盟して、以て帝國婦人の列邦に對する交道を顯明せしが、今亦た斯の如き計畫ありて而も各種各類の婦人を網羅し、一切宏大なる連合を遂げて、海外に對する帝國婦人の態度を發揮せしは、吾國女界一進歩の明證として、深く慶すべし。

人或ひは、此の類の計畫を餘りに漠大なりとして少こしく非議するものあり。之れ一を知つて二を辨まへざるの論とす。凡そ此類慈仁博愛の計畫は、其の申込に對して大反對の理由ある外は、大抵贊同するをもて禮となす。不急、不熱心の故を以て謝絶すべきものにはあらざる也。况んや、其事決して不急ならず、帝國婦人の之に對して不熱心なるを容すべきにあらざるをや。

栃木縣の廢娼建議

醜又醜、何處の果も忌わしき怪風の吹き暴ぶ今日に方り、果然、栃木縣の一方に正義の聲起り、有志青年奮躍して、廢娼建議を呈出す。事は、足利友愛義團の發起にして、團内有爲の氣象勃然として起ち、今まや縣下の一大輿論となれり。冀わくは、此火、紛醜を燒き、飛んで天下に散り、以て去歳當年の意氣をして、純潔なる青年軍の間に炎揚せしめんことを。本號時事欄内に於て、該建議書の全躰を讀むべし。

足尾銅山鑛毒處分要求の陳情

從來捧呈致シ置キ候請願陳情ノ要旨ニ基キ左ニ陳情仕リ候

一去ル明治廿九年ニ比シ被害數倍ノ慘狀トナリタリ今ヨリ必ズ鑛毒ヲ下流ニ氾濫セシメサル事

一渡良瀬川水源ニ關スル山林樹木ヲ禁伐シ土砂扞止ヲ嚴重ニスル事

一河身全面ノ破壞ヲ復舊シ兩岸ノ崩落ヲ扞止シ河底ノ埋沒ヲ防キ及ヒ堤塘ヲ增築シ其ノ沿岸ノ毒土ヲ除却シ能ハザレハ加害者ニ除却ヲ嚴命スル事

一從來被害濃厚地ヨリ多年間納租シタルノ損害ニ對シ救助ヲ與ヘラル丶事

一被害激甚地人民ノ流離轉徙及ヒ貧苦毒食ヲ爲ス所ノ窮民救助ヲ與ヘラル丶事

一被害村々稅缺額ノ補助ヲ與ヘ普通小學及ヒ村務ヲ頽廢セシメサル事

一人命救護ノ實ヲ擧ケラレ異例ノ死亡者ヲ增加セシメザル事

右條項ニ對シテ緊急ノ御處分無之多數人民ノ權利生命ヲ奪ヒ生業ヲ停止セシマヽ此レヲ救フ能ハサルニ於テハ先以テ至急足尾銅山鑛業停止ヲ嚴命セラレ然シテ各當局官省共通連帶調查ノ上嚴重處分ノ順序ニ御着手アランコトヲ事態切迫ノ際玆ニ謹テ陳情仕リ候也

田中正造述

別辭

予、來る六月八日横濱解纜日本丸を以て、歐米女子教育事業視察の途に上らんと欲す、就ては今後一ヶ年有餘、諸君と誌上に見ゆるも、或は疎なるを致すべきを以て、暫く、爰に、別を告げて、諸君と辭さんとす。今や我國は、女子教育勃興の時代復興し、而して、今後の女學界は、果して、如何の方針に就くや、抑もまた之をして、如何なる形態に由らしむべきかは、未定の問題に屬せり、然るに今の盛時、先覺の士、各々經營慘憺たるものあるべく、敢て、予輩後進の小策を進むるも、或は其要なきが如し。故に、予、假令微志、女學界に奉ずるの念ありと雖も、今の盛んなるに於ては、事を、濟々なる先覺の多士に委ね、暫く祖國を辭して、教育の淵源を以て稱せらるゝ、歐米諸國に遊んで、女學の形勢を察し、歸朝の日、時世の若し後進に待つ處あらんか、希くは、以て、誠衷を奉ぜん。故に今や暫く諸君に告別すと雖も、海外女子教育の實況、婦人社會の狀態等、苟も予の觀察し得たらんものは、一々以て讀者に報ずるに、懶ならざらんことを期す。

明治三十一年六月一日　櫻井鷗村識

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

講義

涙の文學

無識庵靜淵

夫れ人間は泣いて生れて泣いて死す。泣くは人のアルハなりオメガなり。天未だ曾て泣かざる所の人を此世に下せしとあらず。テニソン曰く抑も我は何者ぞ、さながら暗夜に燈火を求めて啼く幼兒の如きか、啼くより外には言葉の出すべきやうなしと。噫、觀じ來れば人間萬事皆涕泣の外なし。

されど泣き叫ぶものは獨り人間に限らず、禽獸鳥魚に至るまで殆んど鳴かざる動物なきが如し。而かも下等動物の鳴くや雌雄兩性の陶汰作用によるものにして、其鳴く間に雌を呼び之と共に樂む等あり、稍高等に至つて悲哀恐怖驚愕の情を表するが爲めに鳴くに至る、吾人の耳目には單に鳴くものと聞ゆるも彼等の間には自ら友を呼び集め、又は恐れ驚き、飢渴等の別存し、種々の作用を含むものなり。之を小兒に徵すれば其理愈明かなるべし。小兒は眠を催せる時、飢渴せる時、驚きたる時、搔き時等の何れたるを問はず、唯泣き叫びて訴へんとす、小兒に取りては「泣く」とは凡ての心情感覺を表するものなり。後ち漸次表情の言葉を知り、言語をもて概ね其情を表はす。漸く長じて心情と言語と進步するや、表情術の發達を來し、泣くとは既に彼の全躰に非ずして一部となるなり。

人の成長して後ち泣きて涙の出づるは凡て感情の最高度に達せる時に限らるゝに至れり。而して感情に種々の別ある如く泣くとにも其種類少なからず。

(一)悔み泣き——我身の科を悔み泣く、後悔の涙なり。

(二)恨み泣き——憎し〱の恨みの涙、怨恨の餘に出づ。

(三)喜び泣き——後は言はずの悅び泣き、隨喜の涙なり。

(四)難有泣き——「何者のおわしまかは知らねども忝けなさに涙こぼるゝ」感涙、忝け涙なり。

(五)怒り泣き——腹立ち涙、怒りて涙を溢ぼすなり。

(六)恥し泣き——恥しさに堪へ兼ね、恥しうござると泣く。

(七)悲し泣き——悲しいわいのと泣き叫ぶ、最も廣義に云ふ。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

其の他、啣ち泣き、しんき泣き、絞り泣きより、格子に抱き付くあせり泣き、止めかねたる忍び泣き、泣き入り泣き入る、しやくり泣きの類等、泣くことの事情より言ふものあり。されど人情は複雑なり、怒の中に悲みあり、悲みの中に恨みあるあり、悔の中にも恥づる情あるあり、從つて淋しや悲しや愛ほしとて泣けば、怨めしや悔しや恥しやとて泣くこともあるなり。さればこそ、「悲しい涙は目より出で無念涙は耳からなりとも出づるならば云はずとも心も見すべきに同じ眼より溢るゝ涙の色の變らねば心の見えぬは尤も〱(近松、天の網島)とは云ふなれ。

涕泣の一作用は種々の方面より究むることを得、生理、心理、倫理、社會、及び文學上、何れよりするも頗る趣味ある問題なり。先づ生理上より見れば、泣くに有聲と無聲との別あり。則ち聲を上げて泣くあれば、聲を隱して泣くことあるなり。其有聲なるものは、わつと消え入り泣き沈む、わつと伏し轉び人目も忘れ泣き居たる類にして聲も惜まず叫ぶものなり。其無聲なるものは、息をつめ涙呑み込み、頭を疊にすりつけ聲を隱くして泣くものなり。「聲の下行く涙の流れ、袂に溢る哀れさよ」と云ひ、「聲を立てじと諸共に肩の縫目に喰ひ付いて忍び音に泣くばかり」と云ふもの則ち是れ。有聲は概して自然的なり、無聲は敎育、因襲力の結果多し。無聲必ずしも情の弱きに非ず、有聲必ずしも强きを表せず。其の眼に涙を滿たし齒を食ひ〆め身を慄はす無聲の涕泣は、却て情の切なるものなきに非ず。「顏を見合せて物をば言はぬ目禮の涙たしなむ顏付きは泣き叫ぶより哀れにて」と云へるもの是れ。無念極まる時は涙目にあまり袖を食ひ切り我身を摑み身軆自らにして慄ふなり。然り而して積る涙を一言に泣き盡し、涙の勢耐へ盡き果てゝわつと泣くこともあれば、有聲を以て唯々自然的と云ひ弱しと云ふこと能はず。爰には無聲の涙の往々にして有聲よりも切なる場合あることを辯ぜるのみ。又、思へば〱堰き上げて聲吃りて聲の出でざることあり、涙に聲を合ませて無理に聲を出さゝる時あり。

又泣く時は齒がみを爲し、切り〱と口惜し涙を流し、齒ぎしみして頭も上げ得ざることあり。之れ多くは無念の涙の出る時にして恨み悔みの極に於てす。齒ぎしみして泣くことは專ら成長せる婦人に多く、概して小兒に於て見ざる所の作用なり。蓋

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

し小兒の時は思想單純にして悔み恨み等の無念極り執念深く感ずるものに非ざればなり。彼れは開口一番、自然的に叫ぶを常とす。又更らに泣く時の全身に及ぶ所を見れば、顏は赤く眼は眩み手足慄ひ、又は拳を握り膝に押し付け心臟の鼓動烈しく、全身の神經弛みて活力減し、身は浮くばかり、しほるゝものなり、以上は大概、心理上より生理上に及べるものにして、感情の表出せる一斑と云つて可なり。

夫れ涕泣する狀を生理上、則ち客觀的に見れば、右の如しと雖も、之を心理上、則ち主觀的に察すれば如何なる作用ありや、惟ふに何人と雖も涕泣するを以て快樂とはせず、苦痛の表情たるとは容易すく認めらるべし、之に關しては更らに詳細の說明を要す。

(一)泣いて苦痛を減ずる場合あり――一方より見れば泣くは一の訴へなり。訴ふれば幾分の安心を得るは人間の常なり。泣いて〳〵て泣き暮すのみは人生に非す。心に蟠る悲哀の情に迫られて泣き叫べば、泣きたる後ちの心情は以前よりも多少の弛みあり。西洋婦人が出產死亡の際、思ひ切りて泣く如き幾分安きを得るの道と云ふべし。「泣いて心を亂せとか」と云ふもの則ち是れなり。

(二)泣くは感激の表情なり――先きに泣く種類の別を擧げたる如く、淋し嬉し悲し難有し愛とほしとて泣く者なれば、泣くとは凡て感情の過激なるを表はす、淚の色によりて心の樣を見難きも、『無念の男泣き五臟六腑を吐き出し鐵の熱湯が喉を通る苦み』と云ひ『熱い淚血の淚ねばい淚を打ち越え熱鐵の淚が溢るゝ』と云ふは最大苦痛を表はし、封建時代に於て君公の殊恩に感じ感淚を催ほす如き忝けなき情の切なるを表はす、(又全く生理的にて淚を出す場合あり、唐辛、山葵等の辛らくして神經を過度に刺戟する食物を食するとき之れなり。而かもこは心理的に非ず、往々空淚を製造する時に用ゐらるゝとあり)

(三)連想と模擬より泣くとあり――思想聯合の作用と模擬との二つより來るは人情の常なり。つれて淚を流すと云ひ、共泣きと云ひ、わつと泣けばわつと泣き、愁嘆聞いて淚を流すもの皆之れなり。『浦里が忍び泣きすりや、みどりも共に、もらい泣きする明烏』の、もらひ泣きは其一例なり。シエクスピヤは『シーザル曲』に於てアントニーをして云はしむる言

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に云く、（シーザルの死躰を見つゝ）
其方の心は孕めり（悲みの涙にて）かなたに行きて泣けよ（其方の泣くを見る時は我も悲みを催す故との意）夫れ情は傳染し易きものぞ、何となれば涙の玉が其方の眼にうかむを見るより我眼も濕ひ始めたればなり、

ヲルズヲルスの詩に云く、
余の眼は小供の如き涙を以て曇り余の心はわけもなく動きぬ、そは曾て余の聞きけるものと同じやうなる音の余の耳に聞えければなり。

（四）泣く時は知覺心甚だ鈍し――凡て激情せる時は理解の作用不充分を極む、前後正躰なく、人目も耻ぢず果てしなく泣き出る時、呼くも唯涙のみなる場合、豈に知覺の作用鋭なるを得んや、涕泣の瞬間は、前後左右貴賤貧富の差別觀なし其刹那や天眞なり。

（五）事非常意外の時は却て泣かざるとあり――例へば近親者の突然死去せる報に接する時は泣かずして後ち漸く泣く、之れ事餘りに意外なれば驚愕の念、意識の全面を掩ひ他を入るゝの餘地なければなり。『呆れ返つて涙も出でず暫し語もなかりしが』と云ふと珍らしからず。俗に呆れ返つて物も言へぬとは之れなり。

（六）習慣性を爲して泣くとを増減し得――涙は癖となるとあり、又嗜みて堪へ得るともあり。教育と風俗とによりて増減し得るなり。喜怒色に形はれざるを以て尊しとする民俗は涙を減ずるに至るなり。

斯の如く、涙は一種の表情なれば、コーレーが、言葉は泣き、涙は物言ふと云へるは眞なり。實に泣くものは言語にて語るものは涙なるとあり。「涙に物を言はせつゝ」「心を碎く涙の色」と云ふは之れ也。

一歩を進めて倫理的に察すれば。泣いて涙を流すとは、人生道徳と大に關係あり。サカレー曰く涙は神聖なりと。涙其物の出づる仇にはあらず、近松が誠らしうは思はねど虚に涙は出でぬ物と云へるは眞なり。カンペルが、木石の如きストイツク――涙なき人と云へる如き、蓋し人にして涙なきは眞の人に非ざるを看破するものなり。若し夫れバイロンが、人よ汝は笑と涙との中間にある振錘なりと喝破せる如きは、奇しくも面白き人生觀ならずとせんや。又彼れが、血の流るゝ海

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

よりも涙の一滴を乾かすは、寧ろ勝れたる芳名を垂れんと云へるは、戰亂を起して爭はんより貧弱者の涙を乾かす仁惠の最と尊きを云へるに非ずや、又、同情的の涙の神聖なる源を開けとは、之れ涙の貴重なる側面を窺がひ同情の涙の最と難有きを示せるものに非ずや。『シーザル曲』に、アントニーが、

若し諸君にして涙あらば乞ふ今彼等（涙）を濺ぐの用意あれ……オー今や諸君は泣けり、玆に於て余は知る諸君は惻隱の情に動かされたるを、是等(涙)は實に眞實の涙なり。

と云ひ(シエクスピヤ)又、彼は憐憫に對して其涙を流し、慈善の爲めに其手を開く(仝上)と云へば、其人の德の高きを示して餘りあるに非ずや。チルズヲルスが、人の苦痛に涙を流すは當然のとなりと云へるもの、凡て之れ同情、惻隱、慈悲の爲めに流す涙の貴きを指す。木石の如きストイックに非さる限りは、人は須らく泣くを貴しとす。

然り而して泣きて人を欺くとなきに非ず。シエクスピヤが、彼女は屢ば彼女の涙にて欺きけりと云へるもの之れ。乞食は憐憫の情を惹かん爲めに憐れの聲音を出して涙ぐむとあり、小兒は、來客ある時に、わざと泣き叫びて物を乞ふとを知る。

娼婦往々空涙を流して懷中を空しくせしむるの術を施す。人を飜弄する時、人の憐みを乞ふ時、屢々涙を以て欺くは珍しからず。故海舟先生巧みに這般の消息を語れるものあり。

「アレ位にして置かないとネ、まだ涙ッぽろくて、泣きつきさへすれば善いと思つて來るからね、困るよ(海舟餘波)の類少しとせず、而かも若し人の眞情を知らざれば、涙の眞僞容易に別ち難きもの也、誠らしうは思はねど虛に涙の出でぬは常なり人の裏面のみを觀察して、可成秘曲を探り出さんと期する者は、眞涙も時に空涙と解するに至る、之を偏見と稱す。

又泣くとを男女に別てば、幼少の時より女は泣くと多く男は少なし。詩人の歌ふ涙は概ね女子の涙なり、而して女子に於ては愛情問題の前後及び生別死別の苦痛、義理人情の間に切迫する時最も多し。カンベルが、彼女の涙の中に鬱悶する美の笑ふが如く、樂しき朝の現はる丶所には戀てふものあらんと歌ひ、スコットが、彼の女の唇には笑をもて、彼の女の目には涙もてと云へる、愛情と涙とは常に相伴ふて表情作用を爲すものなり。可憐なる婦人の涙の中には譬へかたなき美の神を宿す。若し女子にして涙なからんか、是れ未だ愛情

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なきなり、婦人は涙の動物と稱する敢て不可なけん。涙は人生を柔ぐるの作用あり、而して婦人に涙の多きは、婦人は社會にチャームを施すに最も適せる所以にして、且つ其高尚なる所以なり、天女と云ひ天使といふもの這般の消息を示すものに非ずや。

終りに文學上より一言せんに、我國文學の中、涕泣の形容、其の表出及び修辭等に於て最も富みたるものは、未だ近松の世話浄瑠理に過ぐるもの非るが如し。彼が世話物は泣くとの文字、則ち涙の文學と云ふも不可なけん。彼が修辭に富みたるは蓋し操人形の爲めに物したるなれば、可成表情の狀を文字に表はすの必要ありしが爲めなり。近松以前又其以後、彼が如く能く表情の狀を描けるは稀なり、彼の世話物によりて涙の生理、心理作用を究むるに余は其頗る巧妙なるに一驚を喫したるとあり。本文中括孤を以て記したるは皆近松の言にして其一例を示したるに過ぎず、然り而して我國文學には、泣く涙の生理心理の表狀に富むも、之を西洋文學に比するに、倫理的の觀察甚だ乏しきが如し、「涙ぐみたる眞身の詞」「聲を惜まず歎きしは性は善なる涙なり、」「虛に涙は出でぬ物」の類多少有之と雖も概して稀有と云はざるを得ず。換言すれば生理的心理的觀察は普通なるも、倫理的に於ては西洋文學に遙かに劣れりとなす。又近時出版する小說、詩歌に就て究むるに到底近松の片腕にも及ばず。何れも簡單にして範圍狹く觀察鈍く、出色のものなし、之れ蓋し詩想に重きを置きたると、泣くと云ひ涙といふの修辯は殆んど先輩の盡せるものあると。悲哀悶絕の實際を觀察せず、先人の觀察せる文字を倣ふに過ぎざると、修辭を輕んじて唯泣くと云ひ悲しと云ひて凡てと表し得ると爲せると等、何れか其一なるべし。倘ほ社會的に涕泣を究むれば、一層の趣味あれども他日に讓りて暫らく斯に略す。

空海上人遺誡

方今諸弟子等、諦聴、諦聴。吾生今不幾、仁等好住、慎守教法。吾永處山。吾擬入滅者、明年三月二十一日寅刻。諸弟子莫為悲泣。所依兩部三寶、自然代吾被眷顧。吾生年六十二、又臘四十一。吾初思、及于一百歳住世奉守教法、然而特諸弟子等、恣永擬即世。

家庭のほゝえみ

◎人生の價値何事ぞ。春夜、燈火を揭げて觀ざれば、花、嵐に散やせん。役々として世路艱難の仕事に盡力しながら、淸くして健やかなる樂しみを得んとならば、家庭の滿足に若くものなし。

◎家庭の樂しみは、其の分もなき無邪氣の事にあり。大人が子供らしくなり、子供が大人らしくなり、世に出でゝの賢人淑女が、頓と其の品格をすら自から忘却せる有の儘の態度にあり。人の聞きて無益とも云ふべき談話たわいもなき述懷こそ、家庭に於ての能辯なれ。家に明き間なければ、家らしくなし。家庭に餘分の暇なければ家庭らしくなし。家庭の合宿所と違ひ、事務所と違ひ、工場と違ふ所以のものは、餘裕あれば也。此の餘裕は損にあらず、ムダにあらず。無用乃わち有用となるを、和樂せる家庭の消化機能とす。

◎ゆかしきは、舊きにあり。舊きは、情感と織り成して神聖の歷史をつくる。門前にションボリと立てる松も、庭の隅に小高き丘も、隣のおばあさんも、出入の肴屋も、皆な家庭に憘樂を添ゆる粧飾なり。人大きくなれば總べて嫌なる記憶は忘却し去り、たゞ〱之をゆかしくのみ思ふべし。家の屢ば移さるゝは此の資本を奪わるゝなり。成長して後の憘樂の過半を失ふ。

◎齒一本缺けての不愉快、爪一枚はげての不自由も、經驗なき人の知らざる所ろなり。人世、二親そろいたる子供ほど幸わひなるはあらねど、現に二親あるものは、其の祝福を認識することも出來ず。然し乍ら、感謝せよ、親は假令ひ如何なる親なりとも、一生病身にて常に床にありても、二人そろひて居ますほど、其子に取りての幸わひはなし。

◎かたみこそ今はあだなれ之なくば忘るゝとのあるべきものを、と最と切めて不平の慰さめをや言ふらん。乍然まだしも片身のあればこそ、涙を落して泣くてふ一種の慰籍あるなれ。泣くは悲しみの絕頂にあらず、悲しみを減らす一つの助けなり。古人歌つて曰く、泣にゆくこそ樂しけれと。泣くとの出

來る慰さめは、泣くとすら出來ぬ苦しみと何れぞや。

◎親を失なひたる子は、喜び事のある時ぞ悲しき。親、ましまさばと思ふにつけて、誰に此の喜こびを見せんとや思ふ。つれ合を失ひたる獨夫未亡人は、新らしき思想の起るたびに、反つて悲しき心地す、誰に告げて此の情を分たんやと思ふ。就中、遺れがたみなどの日ましに成人して、我を忘れて無邪氣なる遊びなどなし、人々見て大いに笑ふ時ぞ、彼人等の心ひそかに悲しけれ。誰に見せてか同もに其成人の喜こびを慶ばんとはすらん。

◎逝くものは追ひがたし、去ものは反しがたしと觀念して、切めて現在の人と樂しく睦ましく暮さばやと思ふこそ善けれ。たゞ夫れ此の心既に一種のわだかまりなり。意わず額に多少の皺よりて、胸に餘計の覺りあり。無邪氣たるを得ざるの端なり。

◎淺はかの世や、つれなき人の心やなど思ふ可らず。淺きは淺き、濃きは濃き、たゞ其まゝにしてあらなんこそ、家庭には善けれ。家庭に於ては、批評眼を弄す可らず。家庭に於ては、愚ならんこそ面白けれ。

◎朝起き出でゝ、露にぬれし青葉を諸共に打ながめ、夕ぐれに庭前に集まりて、さま〴〵に遊ぶ。此時、大人もなく小供もなく、用事もなく、思想もなく、たゞ其まゝにあらんには、釋尊の所謂ゆる寂も斯くやと思わるるとぞ。

◎斯る樂しみあらなんには、其裏面に規律なかる可らず。滑らかに甘まく車の廻らんには、磨擦を辭せず運轉を辨ぜざる獻身の心の何處にか充滿せざる可らず。覺悟は覺悟、愼しみは謹しみとして固より存すべし。家庭の人相合しての愜樂には、かゝる修業の消息を忘るるなり。

妻の不平

世に慣れぬ一男子

前に二樣の不平を記されたるを讀みてより偶と心付き或る知り人を訪ひて其の心の中の秘め事を聞き大いに驚ろくとあり世上の男子の心得にもならんかと念ひて左に其の話しのまゝを書とめたり。

◎人が善いと言へば無類なんですが、男はチト、ちつとは惡

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るくても構ふもんですか、人中に出て後れを取らぬ位ゐが善いですよ。唯だ柔順にするてゑのは、此方黨の事ですよ。いつでも、「ソウ〳〵」、「ハイ〳〵」では面白くないジヤアありませんか。妾ナザア、こんな質ですから、一處にでも外に出ると、ツイ荒つぽくなつちまつて、内の人の名代でサア。何を馬鹿など云ふ氣で掛るものですから、ツイ忘れて仕舞ひますのサ、女と云ふことも何もかも。

◉ダガ、善い人ですよ。妾等から見れば、マア、佛様ですワ夫で、何も馬鹿ではないのですよ。大層、のろけるよふですがね。結構と云ふなア、申分はないんですが、夫でも矢張り厭足りませんね。男はヤハリ男らしくして下さらんと、ツイ女の方で暴れ出しますよ。

◉妾ナザア、こんなものですから、好放題の事をして我儘計り言つて居たいのだらうと、コウ仰しやるでせう。夫だから男の方はだめだと申しますのサ。女と云ふものは、矢張り女で、いくら荒らい馬でも、どうせ手綱で扱われるものと云ふと丈は知つてますからね、どふか押え付けて欲しい、ギウとも言へないほどにして欲しい、妾達に我儘をさせぬ程に壓

制してもらいたいと思ふものですよ。ドンナ女でも、亭主にした以上は、夫を尻に引きたかありません。チヤント、亭主らしく崇めて、ハイ〳〵言ひたいのですが、あやにく持つたが病ひで、この我儘なのですから、御遠慮なしにギウツト締めて頂だきたいのです。夫を構わず放つて置れますとね、あとで氣色の悪るいこと。コンナ風にして優しくされるより、一層擲られた方が、餘程善い心持ですよ。男の方ア、ソコの處は御存知ないから、ダメダ。己の女房は我儘だなどと仰しやるのは、ソリヤア、御自分の恥ですよ。親馬鹿と言ひましてね、親は己が馬鹿になつても、子供の賞められるのが善い相ですが、家内だつてソウデス。あすこは、お神さんで持わなどと言はれて、心持が善いものですか。

◉ソリヤア、あなた、女房の情があつて、亭主が女郎買などをするのを構わないものがありますものかサ。鹽でも振つて清め玉へと仕なキヤ、内に入れたくもありませんのサ。第一きたなくつてならないジヤアありませんか。デスガ子宿の人の様に石部金吉で、ソンナ事に見向も仕ない代りに、丸で一切御存知なしで、友達などから馬鹿にされるやうなことを言は

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

れる所を聞升と、私シヤ、一處に行つて遊んで來よふか、質を八に置ても思ひ切り遊ばせてあげたいと思いますのサ。夫でも、いよ〳〵ソウやられた日にヤア、ニユウツと角を二三本、コウ出すかも知れませんよ。

◉經濟ですか。ソンナ六かしいとは知りませんがネ、ナニ分はありやしませんのサ。男でも女でも、ソウ言つてやりますのサ。入用が餘計かゝれば旦那から頂だいた金が足らなくなる丈だよ。お前だちが氣を付けてくれれば殘るだらうふ、殘れば、ちつとは上られ様じやないかと、言つたきりで任せますのサ。ナンダカ、甘まく行くようですよ。夫で實地殘りでもすると、キビ〳〵やりますのサ。ナニ、知れたものでサア。鼠が腹一杯食つたつて、お鉢の御飯をミンナ食べられはしないジヤアありませんか。良人の人がそれを彼此心配氣に言つて、男の僻に臺所のことなど口を出されると、腹が立つて成りませんから、ツイ亂暴を言ひますがネ、實は夫は悪るふ御座りますが、不思儀に、男や女は夫を聞いて、いよ〳〵骨を折つてくれますよ。

◉子供ですか、子供は可愛ものですな。アレ等は我儘をさせては成ませんから、夫は嚴しく躾ますがネ、肝腎御當人がコンナ口悪ですから、時々は大きに困りますテ。夫でミンナは丸で妾をチヤチの様に思つて、チヤチの方に、そつとねだるやうですよ。チヤチが亦た子ぼんのうで、カラキシ、チイ〳〵と聞くものですから、締りも何もつきやしません。ソンナ事をなさいますれば、鹽踏の爲に、いつそ外へやつて仕舞ひますよと、どなるのです。夫で少しづゝ治まつて行くのですがネ、どふです悪るい婆さんじヤアありませんか。

◉姑さんの居なすつた比は、自分で申すよふで甚はだ恐れ入りますが、コレでも中〳〵の勤めましたよ。たしか善い嫁だと仰しやつて下すつたそうです。親類なんかへ行つて、何とか言はせるよふなとでは剛腹ですから、隨分骨を折りましたよ。夜もろく〳〵寢ませんで、看病もしましたが、不思議に、夫でも持つものですよ。今から考へて見ると、どふしてあれで躰が持つたものかと思ひますがネ。ハア、六年ほど看病しましたよ。その時ですよ、良人がハア〳〵心配して下すつて、氣の毒だ〳〵と言つて下さるのが、腹では、うれしくないとはないのですが、何んだか直きに癇癪が起りましてネ、ひど

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いとを申したのです。スルト、尙ほ心切に仰しやるものですから、尙ほ怒るのです。夫をお母さんが聞ては、亙人が妾に無理をお言のかと思つてチ、反つてお叱りなさるのです。スルト、唯ハイ〳〵と仰しやるのですもの。何と云ふ善い方でせう。妾は、亙人に向ふと我儘が出るのですもの。ホンニ亭主にばかし鬼神のお松で、あつちこつちですネ。

◉あなた方、まだお若いから、嫁はをとなしいのをお取なさいよ。妾のやうなものに引掛ると身じめですよ。ダガ、妾の樣なものでも、中々、柔順な所がありましてテ、之でも、十七八の時は、ヤッパリお孃さんでさアネ。赤い顔もしましたのサ。今でも、さうですよ。ダカラ、男の方は、妾みたやうなものを能く抑えて下さらなキア、なりません。夫も、無理を言ひなすつては、生命をすてても服しはしませんし、男らしくないとなら、横面でも張りあげますがチ、筋のたつた、腹の大キナ、人情に深いとなら、ポロリと折れて、をとなしくしますサ。そして、亭主關白の位で、十分たてて置たいのですよ。思ひ違へなすつてはいけませんよ。

随感

○風光樂事多し

巢鴨村の往來、板橋街道による。終日代八車の、轢轆として砂塵をあげ、一朝雨ふれば泥濘、脚を沒す。不快禁へがたし偶たま、用務ありて都に出れば、俗事を處理して紅塵を含む。早く村舍の清氣を吸わんとて、急いで滊車に搭じて歸るを例とし、此時必らず板橋停車塲より下る。之より八町、悠々散步して先づ庭園田圃の風光を樂しまんとするに、此處も亦た塵揚り、石燒け、萬物、醜粉に汚さる。嗚呼、身は村落の靜境に棲ひ乍ら、何んぞ鷄犬道を告ぐるの閑路に步むとを得ざるやと。此村に居を移して後の最大不平は即はち此事なりき。左れば、一念連感して、吾が村の道路に及ぶや、不快の情湧然として止めがたかりしに、近日、拂曉起き出でて、庚申塚の頭に佇立し、偶と街上を見渡すに、兩傍の槻亭々として、且つ春の綠葉に繁り、交叉して道を覆ふ。夜來の露、木梢よ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り落ちて、砂を潤ほし、車行時に斷え、路人未だ歩まず、道太はだ清し、而して其筋屈曲、茅舍隱見し、破れたる籬、半ば車を見らし、積たる材木の端、不規則に列び、鷄の聲、其の後ろより起る。眞に妙好一幅の村舍の畫圖なりき。狂喜して絶叫すらく、「吾村の道路も亦た美神の棄てざる所ろ」と。之より、太たく愛好の念を生じ、朝夕別眼を以て觀れば、こゝも亦た風雅の往來なりき。夫れ、道路も、人と同じく忙わしき時と、閑けき時とあり。其の俗務の繁げき折のみを眺めて、之に雅致なしと云はんは、酷ならずや。昔し、某詩人はロンドンの夜の景色を詠じて、絶好の風流を感じぬ。大隱の市にかくれたる樂しみは、大方此邊にや存すらん。

われ斯くして爽然として活き、近時尤とも快ちよき發見として、心中に一樂を加えたり。乃わち、數ば逍遙して、つく〴〵と念へば、蓋し、春の一時の生命とせし花の後に寧ろ青葉の清潤なるものあり、秋に入りての後の樂として思ひ掛けざりし栽は、初夏、軟緑豐柔の裝ほひして今既に美なり。風光の樂しみは只だ一時〳〵と思ひしは吾が過ちにて、何れか長き壽命なからん。人生思の外に樂事多く、天地、存外に美くしきもの丶、數多きとよと心付きてより、狹き胸の俄に廣ろく、憂き物思の微笑を得て、此頃ろは夙朝早暮の忙わしさに、一種別樣の新趣味を加えけることそうれしけれ。

○忍ぶ草

吾校のすみ〴〵手入も屆かざる邊り、道の傍わら草取の手も及ばぬ荊の下などに、忍ぶ草こそ此の頃ろ青葉を擴ひろげたれ。顧りみて之を賞めんとする人の少なければ、幸わひに身を全ふして、淸き蔭を地上に印しつゝあり。われ、熟々と見て、淚とゞめあえず、故海舟先生、就中之を愛し玉ひける御心を推して、其の歌吟を朗らかに唱ふれば、格調一入にきこえて、氣韻つくしがたし。歌に云く、

美わしき花さかぬ身はなか〳〵に、
　しづかに世をば忍ぶ草かな

○小人

偉人の心、さとらまほしく、小人の情、知り得たし。小人を知らざれば、爲す事々に要緊より外れて益なし。忙々役々、

勞苦して而も價値なきは、悲しからずや。君子往々小人を遠ざく、遠ざけて而して如何にして知らんとはするや。人生、誰か果して大人たる、幼なきもの唯り稚きにあらず、人生、誰か果して完人たる、白知の子、唯り愚かしきにあらず。暴りに、君子小人の別を立てゝ、截然として之を區たんとするは、夫れ何者の權能にか依る。

○大磯だより

長城居士遠く去り、湘煙女史重く病みて、久しく『大磯だより』を聞かず。頃日、忽ち、女史が近作一律を送附せらるるあり。朗唱半ばに及んで、遂に默して歌わず。左に掲げて同情の士に見めすと云ふ、

去歲今時始卜レ地　十有一月家漸成　秋澹高麗山邑嫣
冬温花水橋影紅　雨窓論レ文對レ机座　晴日按レ詩携レ手行
江山領略秋冬景　偏期春色對二山櫻一　櫻開三月君空去
孤獨對レ花奈何情　此地夏節於レ春可　松青沙白凉味清
况是穿岩水泉迸　旦暮聽盡潺溪聲　水聲入レ耳太多趣
只使二愁人涙易一レ生。

雜録

鬼面百相（其六）

青柳有美

●●迷信より遠ざからんとする心、あまりに切なる人は、却て亦おそろしき迷信に入る者なり。假令ば博士加藤氏の如し。

●●進歩黨の仲間とて、一度は、地租増徴に贊成せざるべからず。されば、暫く山縣内閣を出して、之に地租増徴を實行せしめ、何に喰はぬ振りにて、之を攻撃し讒罵し、しかも、かげ靜に、後の日の我がために、御奉公をさせ置くこと、無類妙々の術策ならずや。

●●人の、貞操を重んじ律義を敬するは、なほ物好きどもの、骨董品を貴しとするが如し。之を以て、徳を念ふこと即ちこれ人性の自然なりと速斷するは誤なり。人の道徳貞操に悦ぶは、その尊きがゆゑに非ずして、珍らしきがゆゑなり。知り給はずや、徳義とは、これ骨董の一種なるを。

●●女人は、自惚の心男子に勝り、間々『お天狗』の譏あり。蓋

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し婦とは、餘人のあるを知らんとを希ず。殊には、エクオルまたマツチエなどいふ同等者のあるを、思ふだに厭へばなり。

●●破壞者は『經驗』を以て無學者の智慧なりと嘲る。

●●政は道に非ずして、權なり。然れども、權は即ち道なり。

●●今日の外國傳道は、其源を人種的驕傲心に發す。之を濟世の慈悲などと宣揚するは、狂者の沙汰とこそ言ふべけれ。この心、殊にアングロ、サクソン人種に強し。されど、天主教のもののみは、まことの慈悲と思はれて難有し。

●●『終まで忍ぶものは救はるゝことを得ん』とは、經の言葉なり。『伴食』と人は嘲けれど、並々の凡夫にては、これ出來難きことなり。大抵は、半ばにして其椅子より離れん。

●●アーヴヰングの文は、間々、冷罵の調を含む。之をしも、そのユーモアといふべきか。

●●米國の大統領は、稍々高等の敎育ある學者たるを要するごとけれど、佛國の大統領は、たゞの人望家にて、こと足りぬべし。

●●醜き女の、ひがめる心強きは、なほ貧しき族の、此心盛んなるに同じ。共に、人の、我れを賤み疎んずるを疑へばなり。

●●人の心試めさんとならば、先づ餘所人の惡口など、その人の前にて、ならべたてゝ聽かせよ。必ずや、感應あらむ。

●●沒理想は、時として無理想と見ゆることあるべしとは、逍遙先生の語なり。大人の奸物と見え馬鹿と思はるゝも、この理なり。有美の、『墮落者』と思はるゝは、何故乎。

●●婦を夜叉の如く罵れる例のショウペンハウエルは、其遺產三千磅を、さる見目よき女優にのこして逝けりと聞く。凡て、女性を賤んずること激げしき男は、又怪しきまで之を崇拜する族なり。『鬼面百相』の記者など、その仲間なるべければ、姫達それ安んぜよ。

●●『張り』といふもの持たぬ女性は、男をして我があとを追はしむること難し。されば、この『張り』のなき女と話すほど、面白味なきはなけれ。げに女の持つべきは『張り』なりけり。

●●希臘の神話に、オルフヰヤスといふ男あり。妻のユーリデヰリスを陰府の谷より取り戻さんとて勉めしが、能はざりければいたく愁ひに沈みて泣き悲しみしに、シレンスの女共之れを見て、如何にやしけん、あまたゝしく怒り、其男を捕へて、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之を寸斷し、無殘にも、其頭の鮮血に染めるを、或る川に流しやれりとかよ。これぞ、女性の實相なんめれ。

●●『ハムレット之悲曲』は、所謂『お家騷動』に、其種を取れるものか。ハムレットなる皇子の、眞に狂へりといふの當らざるは、素よりなれど、全く狂を粧へりといふも、又謬れり。厭世家の常とて、妙に曲りぢれて、狂へる眞似し、物面白ふ思ひもしたるべけれど、種々のことに、殊には我が王位を繼ぐこと能はざるの無念さに、所謂『氣の變に』成り居れるところも、また之れありしと見るべきなれ。

●●聲樂は敍情詩の如く、器樂は敍事詩の如く、歌劇に至りては、それ劇詩に似たらんか。されば、器樂なるもの、、聲樂に勝りて困難なるは、いふまでもなけれど、人を動かすことの多きは、却て彼れに及ばざるらむ。

●●初見の生れんとする時の父親の心は、けふ旅立せんとて朝食に向へる人の心地に似て、何ものか、喉さきにつかへ居る如しとかや、『生れたる後は』と問へば、火事場に來合はせたるが如し』と答へたり。

●●ユニテリアンとは、不仕附もの、寄合の如く思ふ人、我邦

には多かるべけれど、こは神を敬ふ心の、人並みに勝れて篤く、基督を『神』と唱へまつるは、『神』を瀆すことにて、誠に勿體なしと思ひたれば、基督神子論を非定して、『人の子』なりと傳へ始めたるものなるべく、實は難有き信仰のことなれ。

●●聖使徒保羅、福音に於ける愛子提摩太に諭して曰く『妄なる談と、老たる婦の奇しき談を捨て、神を敬ふことを自ら修行すべし』と。

●●四十五歲より五十五歲に至る十年間は、人間醜惡の絕頂時なり。蓋し、この間は、變化少くして、沈靜の時なればなり。人、四十五までは、增さんとして動き、五十五よりは、減らんとして動く。凡て、沈靜は萬毒の素なりと知るべし。

●●すでに社會あり。豈に完全の自由あらんや。すでに形あり。豈に、心神の自在なるを得んや。

●●嫉妬心は、たゞ同等の人に向てのみ動く。

●●人體には、進步主義と保守主義との調和行はる。今のものを失はず、しかも之れに新しきを加ふ。これ眞の進步主義にして、又まことの保守主義なり。之を新陳代謝といふ。

●●帝王とは、總て天降れる天孫の如く言ひふらし置かずば、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人民の不平利己心など、その間に入りて、國家の安寧統一を害し、秩序平和を破るに至るものとぞ。

●●音響にありても、光線にありても、將た熱線、さては玉突などにありても、投射角と反射角とは、常に相等し。この法則の、又よく政治人情の間に行はるゝを心得なば、萬人を濟度する一種微妙の『こつ』を會得するにそれ至らんかな。

●●女子は、其眞相の知られんことを恐れ、男子は其眞相の見られざらんことを憂ふ。

●●白痴は綜合力に富めども、分解力に乏し。故に棒讀みの暗誦は、之をなすこと、さまで難からずとするも、突然指されて『某の處を』と求めらるれば、之を思ひ浮ぶること、仲々に難し。

●●頭巾せる婦人の、吾妻コート着流せるは美はしけれど、肩掛纒へるは、見惡し。されど、頭巾せざる女の吾妻コートせるは、見榮えなく、肩掛のゆるやかに廣く長きを、頸もとにキリリト纒ふて、ひだ多く垂れ流せるは、却て美はし。凡て吾妻コートは、身の丈け長き人にはよけれど、低き族には似合はず。また長が續きのする流行に非ずとも知れ。

●●我れは、婦人を見んことを欲すれども、之を知らんことを希はず。豈にたゞ婦人のみならんや。凡て人間は、その皮膚の美はしく、其心臓の穢きが如く、見るに善く、知るに惡きものなり、殊に、女は然なり。『外面如菩薩、內心如夜叉』と經にいへるは、まことなりけり。おそろしき哉女性。

●●また婦は龜の子の如し。外硬に見ゆれども、うち至りて軟なり。其勇氣其決心など、實は皆な虛勢なり。

●●女禮式とは女子の男子に對する禮に非ずして、女子の女子に對する時のみの禮なるを。女子自らは知るや知らずや。

●●『時』は、萬物を祝福す。

●●沙翁は『自然』の如し。

●●天主敎の要は、人を慰めんとするにあり。新敎の要は人を責めんとするにあり。されば、天主敎會の法にて、人の逝かんとするものあれば、祭司其病床に臨み、これに聖油を塗り、赦罪を宣告し、少しにても其心の靜かにして、永き眠りに入らんことを計る。されど、新敎の儕輩は、皆な殺伐なるテュウトン根性をうけつぎて以爲く、惡人ならば安心せずして死するも可なり、若し眞の信仰だになくば、如何にキリス

テヤソと稱ふるも、須く七顛八倒して死し、地獄の火に燒かるべきなりと。而して、之を大恩教主の旨に適ひたりとなす。然れども思へ、これ、大悲大慈の御教を更へて、荒神エホバを說ける猶太敎の昔に還へるものたるを。されば、新敎は是れ舊約の敎にして、舊敎と稱へらるゝ天主敎は、却て新約の敎なり。

●●シエークスピーヤ十八歲にして娶れる時、その妻は廿六歲にて、マホメットの妻は、夫よりも老へたること、十五年なりきと。

●●よく發達し、よく圓熟せる人とは、その自ら念ひ浮ぶところの思想と、その觀察に入る實際の事實とが、相合一するに至れる如き人物なり。

●●英吉利の大詩人と稱へらるゝもののうちにて、最も虫好きのせぬは、スコットならんか。

●●ほろ醉ひ加減の時ほど、舊き記憶を復現するの銳敏なるはなしと、例のショウペンハウエルいへり。されど、新に記憶に留むるは、素より難しと知るべし。

●●男女共同敎育をなすの勇なきは、大日本帝國の國辱なり。

●●惡を隱くさゞる人は、假令惡をなすも、其名譽を破らるゝこと少し。己が缺點弱所を隱くし飾るほど、愚なるはなけれ。かゝる似非聖人をこそ、馬鹿の骨頂とはいふなり。

●●女の書生ほど、づるきはなし。何れの敎師にも手前をつくろひ、その敎師を、凡ての敎師達にいや增して、うやまひ敬慕する如く見せかけ、何んにつけ、かにつけ、ちやほやすれど、これは何れの敎師に對するも、皆な同じことにて、愚かにもこれに鼻毛を伸し、我れこそは、校中第一の人望ある敎師なりなど、自惚れなば、とんでもなきよい馬鹿を見るべし。かゝることは、男子の書生には、珍らしきことなれど、女子の書生には、頗る有り勝ちのことなり。女學校の敎師たるもの、用心肝要なり。

●●あゝ、我れは、コレリッヂの如く、晝なほ夢みんことを希ふ。

《まだある》

太上、下不レ知レ有レ之。其次親レ之譽レ之。其次畏レ之。其次侮レ之。信不レ足焉有レ不レ信。猶兮其貴レ言。功成事遂、百姓皆云二我自然一。

四の折

紫苑

（一）惠みのかぜの　ふくなべに
しづが桓根も　玉しきの
庭ものどかに　さきみてる
花のにをひに　かすむなり。

（二）一むらすぎし　ゆうだちに
うき世のちりは　あらはれて
みどりしたゝる　梢より
もれづる月の　かげすゞし。

（三）千里の外も　見ゆるまで
さやかにすめる　そらのいろ
山のにしきは　うすくこく
ながるゝ水は　おときよし。

（四）見わたす限り　野ら山も
眞しろの衣に　つゝまれて
春にしられぬ　木々のはな
にをふ朝日も　のどかなり。

（五）エホバの法は　四のをり
いつも此世に　あらはれぬ
われらは御名を　ひたすらに
たゝへまつろふ　ほかぞなき。

いかづち物語（二）

久保ゐの吉

さて、人力の得て及ばぬもの、はては最も恐ろしきものを神としたるは、いつれの國の昔も同じ事也。宗教は多神教を以てはじまりし事は理のある事なり。しかし、是は神代史時代に比ぶれば遙に後の事なるべし。かの時には神が此世に下りて。人と手に手をとりかはしたる時代にて、その間に情もあり親もあり。されどその次の代になれば、唯神は畏敬すべきものとのみなり、愛すべきところは見えず。神は嚴然たる階級をたてゝ上にあり。常に下界を見下して賞罰を行ひ、禍福を下し玉ふ如し。これ當に此世を見すて玉ふべき前の階段にして、人の世になりての始の事なり。

昔よりのこれる詞は恰も前に進みし人のあしあとの如く、

よく我々をして見ぬ昔をたどらしむるものなり。されば詞の源本を調ぶる事は、決して徒勞ならじ。先つ雷といふ詞を見るに和名抄に、雷公とかきて「いかづち」とよませたり。さていかはいかめしい等いふ嚴の意にてつは沖つ波山つみ等のつにてのといふ事。ちは尊稱也。畏怖する意は十分見ゆ。契沖阿闍梨は雷は嗔槌の意にして野づち、足なづち等いふに同じ事といひき。之も嗔故、畏怖の念明かに。しかるに過日、吾輩のはじめしいかづち會の事をいたづら會とか横槌會とか悪口せし人ありしも、實に語源をしらぬ人々なり。易經の豐卦に「雷電皆至」といふ句あり。その註に、雷者天之威動、電者天之光輝、雷電倶至則威明備、以爲豐也、といふは、能く雷の語源を示したるもの也。

又吾國にては、カミと單にいひても、雷の事をさし、雷鳴を「神鳴」とか「なる神」とかいふ。神そのまゝを以て、雷に附けたるを見れは、古代の人がいかに雷をおそれけむかは明か也。今も雷鳴に線香を立てす蚊帳にこもり、蒲團を被てかくるゝ等は、古の人々がいかにおそれけむかのおもかけをのこすもの也。而して地震、神鳴、火事、おやぢといふ句の動かすべからさる諺として、今にのこれるは、古の畏怖のさまを先天的に腦中にきざみおけるものなるべし。又神罰を受くる事を「撥があたる」といふは雷神の太皷の撥が飛び來るといふこゝろよりおこれるものか。

獨り吾邦のみにあらず。木曜日といふ英語の Thursday. 獨乙語の Dannersday 之れ皆雷神の日といふ事にて英の Thursday といふは古きサクソン語の Thunar 獨讀にてトゥーナール、英にてサナール、及び古き獨乙語の Danar より出てたるもの也。アングロ、サクソン語になりて Thurar, アイスランドにて Thâm. 又 Thor. といふ。之は古き北方の語也。之はスカンヂナビヤの神の中、第一位に位する勢力ある神として雷の神也。これより Thursday. といふ字はいて來れりといふ。

（未完）

島田三郎氏、櫻井鷗村の送別會席上に演述して曰く、誰か米國を拜金唯物の國と云ふや。曾てフランセス、ウイラード女史を其安息廬に訪へるに、閑雅の一小屋に質素の生活をなし、秘書三名を手足の如く役して、天下縱横の通信を發す。余か到れる時大學の教授を招きて余に紹介せられしに、教授が同女史に對する、宛から弟子の如し。余は米國に於ける勢力の秘密の決して只だ金錢にあらざるを知りたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

四の流れ

露草軒潜恨

○銀　河

天の河原を眺むれば
　天の力やあせにけむ
清き流れの音絶えて
　いつかちとせを過ぎにけり
　　嗚呼慕はしき夢の世の
　　清き流を汲みつらば
　　心や如何に樂まむ
　　綠の空は變られど
　　天の河原はかれはてゝ
　　水は何處にうせつらむ
星よ星よと呼びつれど
　我身の如き幼けなき
琴の響は聞えずて
　空の泉にうせにけり
　　響を傳へ織姫よ
　　響を渡せ鵲よ

○加　茂　川

加茂の河原を眺むれば
　水の力は衰へて
承保の帝の御心も
　いつか千歳を過ぎにけり
　　嗚呼慕はしき加茂川よ
　　昔の如く流れなば
　　心の塵(ちり)や洗へなむ
　　東山はありながら
　　加茂の流はあせはてゝ
　　水は何處にうせつらむ
水喜散(ちどり)ちどりと呼びつれど
　我身が如きさがめある
琴の響は聞えじと
　翼を打て飛びにけり
　　響を傳へ川ちどり
　　響を渡せ娑橋

○大　堰　川

大堰河原を眺むれば
　小倉の山はありながら
三船の遊び音きえて
　遂に千歳を過ぎにけり
　　嗚呼慕はしきそのかみの
　　物のれいろを聞きつらば
　　心や如何に歌ひけん
　　四方の色香は變れども
　　大堰河原の水はまだ
　　清き岩根を洗ふなり
櫻さくらと呼びつれど
　我身の如き匂ひなき
琴の響は聞えじと
　戸難瀬(となせ)の瀧にくだけゝん
　　響を傳へ櫻花
　　響を渡せ渡月橋

○宇　治　川

宇治の河原を眺むれば
　刄の音も忍ばれて
治承の亂の夏空も
　遂にちとせを過ぎにけり
　　嗚呼慕はしき賴政の
　　猛しき樣を眺めなば
　　心や如何に勇むらん
　　平等院は變られど
　　宇治の流れはあせはてゝ
　　水は何處にうせつらむ
姫よ姫よと呼びつれど
　我身が如き情なき
琴の響は聞えじと
　跳鹿離(シ、ドヒガタ)にくだけゝん
　　響を傳へ宇治川よ
　　響を渡せ橋姫よ

新刊書

◉日本歷史　岩谷漣著　博文館版

小兒等より譯の伯父さんの名を博したる、巖谷小波君は、今や世界御伽譯を編んで、百卷の大部を成就せんと期しつゝ、また幼年讀本なるものを編みて、學齡前後の幼兒をして、地理歷史を、面白ろく、容易く知らしめんと欲し、其第一卷として、日本歷史を出せり。二千五百年の歷史をば、僅々百三十餘頁の中に書き込めたる手際は兎に角に、幼兒等の目に留るべきやうなる事柄のみを、御伽譯林に書き流したれば、これまた、幼兒の愛翫を得て、自然と、日本歷史の何たるを會得せしむるを得べし。小學校の歷史教科書などよりは、此書の方、遙に幼兒をして、歷史を知らしめ易かるべし。然れども、文飾、史實などにつきては、教育家先生達は必ずや、此書に許さぬ處はあるべけれども、幼兒の學ぶべき歷史は、つまりは、御伽譯の區域を出でざれば、重野博士的の考證は要せざるなり。(鷗村)

◉◉魔法博士　同上編　同上
◉無人島大王　同

世界お伽譯第四編『魔法博士』は、ゲーテによりて有名なるファウスト（編者名の字義をとりて拳固先生といふ）の、口碑を述べ、附するに、パイル氏の譯にある『三魔鏡』を以てす。また其第四編には『無人島大王』と題して、有名なるロビンソン、クルーソーの話を載す。(鷗村)

◉星月夜　發行所大日本佛教青年會

常盤梱正氏の「法然聖人」「親鸞聖人」。服部躬治氏の「道元禪師」。久保ゐの吉氏の「日蓮聖人」。四つの新體詩なり。久保氏は餘りに記傳に流れ、常盤氏は餘りに教義に流れたり。余は最とも服部氏の詩情、信念双つながら得たるを多とし、且つ其才品の太はだ高きを重んず(如雲)。

○葉書文　磯野於菟介著。大阪大谷書房發行

既に〳〵文範あり、今の世には葉書文範もなかる可らず。此の書大抵穩當を得たり。但し冒頭には矢張「前畧」などの語を置くこそ善けれ(旙象)。

○新小說霜くづれ　春陽堂。眉庵生。

眉庵氏近來健筆彌よ壯んなり、才氣充てりと云ふべし。江戸ッ子口調と、昔し氣質の老人ぶりとは、深く君を印するものか、氏の各種の作に其趣見ゆ。此の篇、耶蘇教信徒の消息を記するも頗ぶる精やかなり(曲浦)。

○基督教婦人矯風會案内　教文館。

故會頭フランセス、ウイラードの著を鵜飼猛氏の譯述せられしもの也。此會の發端、組織、精神等簡潔に記述せられたり。終に日本婦人矯風會の歷史を附す。(同前)

○女子手藝要訣　博文館。下田歌子

家庭文庫の第八編なるが養蠶、紡績(染物)、機織、裁縫、刺繡(縫紋)、押繪(紋形)、編物、造花、包み物結び物等に付き記載す。女史の才多々益々便ずと云ふべし。(同前)。

○政教新論　與教書院。藤島了穩

根抵あり氣焰あるの文章をもて政教相關に四種の方ありと說き、中に於て公認制度を最可とす。教誨師事件の如きを些事と見做し、女學校、免囚保護等の事業を緊要とす。着眼總て佛界の先覺たる價値あり。(同前)。

○太陽、沼南と蘇峯

新聞に成功して、政界に失敗せる二大新聞記者とし、島田沼南と德富蘇峯を比較す。寧ろ知らずや、其新聞の成功よりも其の政界の失敗の方、價値あるを。着想面白しと雖ども、少しく足らざる心地す(旙象)。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

海舟餘波を讀む

本多庸一

昨今微恙あり小憩を得候に付御惠與の海舟餘波通讀仕候勝先生に面接せるが如く感し申候小生が斯あらんと思想し居りたるに甚近邇せる故に御座候小生は不精者にして十年間東京に住居しながら先生の謦咳に接したること無之候故に先生に就ては新聞紙と諸友に聞きたるのみに御座候而して小生の頭惱中強く先入と成り居候は明治十年に庄内の松本十郎氏に聞きたると其後屢同鄕の西館孤情翁に聞きたることに御座候西館は稀有の才智ある人なりしが其說くところはいつも誠意と云ふ事に有之候き蓋し翁の理想は是に在りしと相見へ申候而して其實例として屢謂へり勝安房守は才士ではない誠意誠實自ら任じて事に當たのである彼れは然言ふて居る一度之に面すれば靄然たる童顏誠意と人情とに充ちて居る云々之れは小生が所有せる海舟翁の寫眞に有之候處今日海舟餘波を一讀して彌々ありくと相成申候其言論の洒落にして奇矯なるもの多きが如きは是れ彼も亦江戶兒なるかなと云ふべきものにして僅かに波上の光彩のみ其眞影は朧々たる空中の圓躰にして風波樣蕩の外にあるものなり聊か所感を記して惠與の謝辭に換ふると爾云。

時報

廢娼建議書

足利友愛義團

某等謹て書を栃木縣知事溝部惟幾君閣下に上る頃ろ聞く閣下市街地に於て醜業者か良民と軒を接ゆるは風紀を紊り秩序を破るの弊ありとし彼等をして遠く市街を離れて別に一廓を形らしめ以て淫風の滋蔓を防かんとすと閣下の明敏透徹能く禍根を看破し荼毒を制せられんとするは某等の深く感謝し措く能はさる所なり然かも某等は玆に尙閣下の猛省を仰き竿頭更に一步を進め斷して公娼を禁絕し以て六十萬蒼生の爲めに公德の蟊賊を掃蕩せられんことを悃請せんとす

某等竊かに惟みるに公娼は獸的蠻族の遺習にして文明社會の一日も其存在を許へからざる所なり乞ふ其理由を擧げん

第一、人身を賣買するは天理に背くものなり

第二、獸行を强迫するは人道に悖るものなり

第三、醜業を公認するは國躰を辱むるものなり

第四、猥褻の陋習は風紀を紊るものなり

第五、柔弱の頽風は元氣を耗すものなり

第六、懶惰の惡慣は生產を害ふものなり

第七、夫婦の和を破るは家庭を擾るものなり

第八、檢黴制度は廉恥を毀はしむるものなり

第九、惡疾を釀生するは社會の健全を殞ふものなり

第十、遊廓は詐僞、盜竊、殺害其他社會百惡の淵藪にして犯罪の生母、禍害の根底なり

某等の信する所を以てすれは公娼制度は百害ありて一利なきものなり方今世道委靡し民心倦緩し公德地を掃ひ道義湮滅し上下一世を擧けて溷濁澎湃の中に沒した

るもの職として此の如き醜族の跋扈を公認するが如き惡制度の結果に由らずんばあらず公娼は適さに腐敗社會の標本にして亦溷濁の源泉なり今にして排滅せずんは其流毒將に測るべからざらんとす

存娼論者常に曰く公娼の惡習たる吾曹亦之を認む只之を禁すれは一、密賣淫を滋し二、黴毒を蔓延せしめ三、私通野合を增し四、賦金の税源を失ふの恐れありと是れ一見理あるが如くして未た其實を悉さゞるものなり一、蓋し人間の情慾は從て制せされは愈强烈を加ふるものなり政府保護の下に獸慾奬勵の機關あり焉んそ百種の醜行を憚らんや妓樓公許の地に於て却て密賣淫の尤も盛なるは其反證なり二、檢黴の制は惡疾を防禦すへしと云ふ然かも實際に於て檢黴の結果は病毒を傳播するの傾あり何となれば政府無毒を證明して遊子の放淫亂行を煽動すれはなり三、公娼は私通野合を減するの効ありや試に思へ淫風を皷吹して風俗を高潔ならしめんとするは水源を溷して末流か清めんとするか如からずや遊廓附近の民俗多く壞亂し私通野合の多き正に其反例なり四、賦金の税源を失ふを恐るゝか如きは云ふに足らず我縣民は此汚穢なる税源に依らされば立ち得さる程の貧民にあらず某等は醜業婦の賦金に賴て政費を支持するの陋に忍びす喜んで自から進んで負擔の增加を望むものなり

終に臨んで某等か特に高慮を煩はさんと欲するは公娼と產業地との關係之なり我足利郡の如き織物生產地に於て其產物には靑年子女の手を要するもの甚多し假令へは織女、染工、整理工等皆多くは靑年者の み又織物に關係ある商賈即ち買次商、絹綿糸商、染料商等皆多數の少壯者を傭役せり是等靑春氣鋭にして思慮未た定らさる產業者は幸に嚴肅なる父兄の監督ありて素行の方正を維持し專心產業に勉勵するか故に物產の盛運を保つと雖とも尙往々にして近里に妓樓あるか爲めに淫靡頽弱の惡風に侵蝕せられ徒弟工女の志氣を蠱毒し道義の感念を鈍らし風紀を紊り產出力を減耗するを擧て算ふべからず我產業の禍機は亦實に此に存す之れ某等が一日も早く之が掃蕩を希ふ所以なり

今や內地雜居の期近く目捷の間に迫る公然猥行を認許して醜辱を外人に露白するは眞に以て國躰の尊嚴を瀆すものなり某等傷心の至りに堪へず仰ぎ望むらくは此不文蕪辭を尤めず某等の微誠に採り直に公娼禁癈の美擧を斷行せられんことを某等熱望悃請の至りに堪へず誠惶誠恐頓首再拜。

○咄々怪事

（小幸田子の海外留學）

女學雜誌美術記者

我儕が淺からぬ敬意と尊重とを大小兩幸田子の技能と天才とに表するは、人の能く知るところなるべし。然れども、この故を以て、幸田幸子君が此の度海外留學の官命を受けたるを悅ぶ能はざるなり。その噂の發て新聞紙上に現はるゝや、人も我れも其誤聞たるべきを信じ、當該の人の必ずや、瀧廉太郎氏なるべきを思へり。蓋し、幸子君如何にヴアヰオリンの技能拔群なりと雖ども、既に姊ぎみ延子君のあるあれば敢て此のことに於て幸子君を煩はすに及ばざるべきを知りたればなり。然るに、ピヤノに於ては、たゞ延子君が傍ら之に當らるゝあるのみにて、未だ天才の煥發せるもの一人を見る能はざれば、十目の視て以て異數となす廉太郎氏に留學の特典を與て、愈々益々その技能を練磨せしむるの樂界の慶事たるは誰人も考へしところなるべし。殊に、一族より二人の姉妹相續て特命を官に得る如きは、德義上些か疚しきところなしとするも、社交上頗る面白ろからざることなればなり。

目下我が樂界の急務は、ヴアヰオリンにあらずしてピヤノにあり。されば、兩幸田子にして若し私の心なからんか、官命もし過りて幸子君に下るも、須く先づ之を辭し、その特典を瀧氏に讓るに盡瘁せざるべからず。然るに、事こゝに出でずして、所謂『運動』なるものの功を奏せし如き跡あるは、深く幸子君のために惜むところなるのみならず、幸田一族の名のために恨みとするところなり。兄君（あにぎみ）露伴兄君郡司は、共に超俗狷介の士にして、俗に依り上を力とする如き鼠輩に非ず。幸子君幸に若し樂界目今のの急務に激して私を顧ること淺かりせば、幸田一族の聲れは益々光を添へたらんものを。人或は幸子君の留學を以て、『獨唱歌』に重きをなすと言はん。その他種々の理由もつき纏ふべけれど、これたゞ一時の辯解（エキスキユース）にして、共に取るに足らず。幸子君の留學は、之を瀧氏歸朝の後にするも、

決して樂界のため遲しとせざるなり。畢竟かくその『運動』なるものゝ能く効を奏して前後顚倒の事起れる如きも、幸子君の女性にして瀧氏の男性なる故なればならん。世は大經師の多く、男性の醜なる時節なりとはいへ、當局者の事理を解せず愚昧不公平なるには我儕驚かざるを得ず。是れ特に叫んで『咄々怪事』といふ所因なり。

然りと雖ども、官命一たび下る。又如何ともすべからず。故に我儕も亦、その健康と祝福とを祈りて幸子君を送るべし。ただ願ふは、再び留學生派遣の議あるの日、大小の兩幸田子其畢生の力を揮て、瀧廉太郎氏の當撰に盡力運動せられんことなり。

昔は、森鷗外諸伯原田直二郎に書を與へて、其自ら持すること高きを讃せり。瀧廉太郎君なるもの、この度のことに於て失敗せるは寧ろ其名譽とすべきところにして、よく君が廉直清麗にして『運動』につとめざるを示し、我儕の深く感佩するところなりとす。益々勵み勉められなば、遂に其堂に入るを得ん。亂りに失望して、人を怨むが如きは我儕が卿のために取らざるところなり。宍賢。

○中央會堂慈善音樂會

有美

この夜の音樂會は、殊の外の雜色にて、和漢洋とては舞、薩摩琵琶までありしが舞へる鐵永朝子といふは、まだ十五六歳の少女なる故にもあれど、まだ〳〵態度の固らずして、巧なる方とはいひ難く、之に比較すれば寄席に出る橘家花橘など餘程の達人なれ◉家弓熊介氏の薩摩琵琶は、いやにブルところあり、艶ッぽくして、薩摩琵琶本來の性質を缺き、與咏漸く人を感激せしむること少し◉コーッ氏の獨唱は、音色も美はしく、可なりに聲もたてど、幅狹く、ベースとしては、雄大を缺くの恨みあり◉ガントレット氏の風琴は面白からず、たゞ其風貌の滑稽にして燕尾服を纒へるをおかしがりし外、許すべきこともなし◉ケーベル氏のピヤノ獨彈は非常の喝采をうけ、その曲の細かく巧みなりしものゝ如かりしにも似ず、樂器の下等なるため、樂調爲らず生氣顯はれず、凡手と異れること多からざりしは遺憾のことなり、曾てこのことは、青年會館のピヤノに就ても言へることありしが、ケーベル博士のためには、當該の委員諸氏たるもの、稍々樂器の撰擇に注意せられたきものなり。殊にはピヤノの蓋をさへ、開かざりしこと非常の手おちなり◉荒木古童氏が尺八『里の曉』を聽て感ぜしは、其息の力の、いたく此の前の時より弱りしことなり。されど、三味線の伴奏のみは、著ろしく巧みになられて、曾ての如く、笛を抑へる如きこともなく、知れぬ骨折りせらるゝなるべし。◉ミラー、ハワード、フヰッシヤー、コーッなど四人の合唱は、高音ベースを欧へる人、最も秀でたる如く、ミラー氏の高音テノルは、その顏の如き聲にて、瘠せたるかたなりといはんか◉この夜は、嘗て我儕の、世に先つて紹介せることある横濱フェリス女學校の林定子君來られ、佐藤哲子君のピヤノ伴奏によりて、獨唱を試みられたり。同君の日耳曼音樂の素養少きは、深く遺憾とするところなるが、『カム、アン。トー、ミー』と題し、コーチンの作曲にかゝり、ボナルの作歌になる、宗教歌を歌はれ、聽くものをして其伎倆の拔群なるに驚かしめたり。惜しきは、その發音に一種耳障りの癖あることなるも、こはその上齒の稍々少く出齒にして、割合に鼻の下の脣の長さ短きより、T、D、K、などの發音に、非常の苦心あるが故なるべく、生理的缺點を以て其技術を責むるは、酷に似たれど、若し脣を閉ぢて、齒を隱す練習、齒を積み居られなば、遂にこの弊を免るゝにいたらんか。傍に『國民』の結城君あり曰く『こんな所で歌ふのは、少しもつたいない』と。然り、世の人今や漸く卿に眼を注がんとす。定子君たるもの、自愛して益々樂道に勉めざるべからず◉市中音樂隊の吹奏樂は、何處の連中にや、珍らしくエキスプレッションのありしは面白ろかりき。かの岡山孤兒院の音樂隊さへ、樂器は皆な光るばかりに磨き居るに、市中樂隊の仲間のみ、皆な其色どよみ居るは、如何の故にや。注意せられたきものなり。

○新流行の夏帽子

同

今年夏帽子の新流行は、先づ麥藁黑白のウロコ編みにて、フチは一般に廣く、帶は黑に色の線を施したるものなるべし。咋年は麥藁の水兵帽なりしが、今年は確にこれなりと豫言す。當るにや中らざるにや。

○樂石生の樂評一撥す

同

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

樂石生といふ『讀賣』の樂評先生は、近頃何思ひけん、その批評の方法を一變して無學者の仲間に入られたり。換言すれば、其不親切なる批評をやめて、無類の親切ものとなられたり。されど人あり評して曰く『樂石は、矢張り注釋の方がよい。われらの如き、音樂字書のなきものは、之によりて新事實新智識を得、大に學ぶところあり』と。樂石君以て如何となす。まさか『天地人』の有力なる英針に降參し給ひたるにもあるまじ。

《以上三項五月十二日稿》

○渡邊文三郎氏の狩野風　　同

河村淸雄氏の油繪展覽會を開くや、人その畵風を見て、光琳を學ぶものなりとなせり。此度の明治美術會に渡邊文三郎氏の作れるもの、二面あり。その題はよく記臆せざれど、一つは、日光の神橋の如きものを畵きありしと覺ゆ。その筆意運筆の可否には、評者種々の論議あるべしと雖ども、氏が狩野派の水彩畵に學んで色彩をおろしつゝあるに、氣附きし人あるや否や。その霞を配し雲を畵き木立茂らす樣など宛然安信（ヤスノブ）の山水を見たらん如き心地す。今や和洋東西の畵風、相調和せんとするの際なれば、かゝる大膽なる試驗を試ることと、頗る良き思ひ附きといふべし。渡邊文三郎君たるもの、よろしく此處に心掛けて、狩野派の筆致を油繪畵に入るゝに勉むること、河村氏が猶ほ光琳に於けるが如くせられたきものなり。

○劇塲大道具の批評　　同

日本第一の劇場なる歌舞伎座ほど、大道具の拵へに拙なるはなし。その拙さ、殆んど鈍帳芝居の演伎座にだも劣りぬべし。大道具の最も巧妙にして出來榮よきは、明治座なり。之れに次ぐを小芝居淺草座とす。歌舞伎座の如きは、この次きに位すべからんか。結局同座の大道具師には、機才巧みにして美術思想あるもの之れなしと見えたり。注意せられて然るべし。

○錦繪の色合再變せんとす　　同

錦繪といへば、赤きもの青きもの光るものと相場の定まれる如くなりしも、廿六七年の頃より、淡彩の嗜好盛んに行はれ、澁黯色を用ふること人々の好みとなり、その他の色とて凡て淡きを悅び、芝居の似顏を摺り出せるものまで、一般に清楚たるものとなりしが、近頃は又稍々古き昔に立ち還りて、濃厚の色彩を施せるもの、繪草紙屋の店頭、賑はるゝに至り、錦繪の色合ひ再變せんとするの兆あり。されど、昔の如く、バックグラウンドを眞紅にするが如きことなく、成るべく多く紙の白地を殘し置んとするするものゝ如し。

○明治音樂會の新演奏　　同

同會の折、ユンケル氏指揮の下に歌へる合唱『ふるさ部』は無類の失敗にて、亂脉この上なきものなりしが、此の日同じ音樂學校生徒が、上眞行氏指揮の下に歌へる同じ合唱は、非常に良く調ひて、些かの亂雜なかりしは、上氏の名譽なりといふべし。兎角指揮は上氏に限るものと見えたり◉納所辨二郎氏の獨唱『夢の小蝶』は頗る餘韻を缺き、ブツギリの薪の如く思はれしは、情けなし。納所氏さて、まさかに、『ミユージツク、マヘライ』にあり給はざるべきに。序（ついで）に曰ふ、同氏は近頃左の如き會を設立せられて、頗る樂道のために、熱痒せらるゝと。

○樂聲會規則

第一條　本會は善良の音樂を普及せんが爲汎く世の有志者に音樂を教授するを以て目的とす

第二條　授業科目を樂器部唱歌部の二種とす

第一　樂器部は、ピアノ、オルガン、バイオリン、にして各自一人每に教授す

但し受業者は隨意に專修科目を選ぶとを得

第二　唱歌部は男子女子の兩部に分ち學級を編制して教授す

但し授業者の望により一人每に教授するとあるべし

第三條　授業は一學科に付每週二回とす

但し授業の日は當分火水金土の四曜日と定む

第四條　本會に入學せんとするものは入會證に束修金貳圓を相添へ差出すべし

第五條　授業料は左の如し

樂器部

ピアノ　壹ケ月金貳圓

オルガン、バイオリン　壹ケ月各金壹圓五拾錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

唱歌部
特別　壹ケ月金貳圓
普通　壹ケ月金壹圓
但し授業料は毎月廿五日迄に納付すべし
麹町區下二番町六十二番地
樂　聲　會

◎米國通信

在米國ブリンモア女子大學の松田道子女史より、在日本獎學資金委員の方へ送られし通信なるものを見るに。……

歳月流るゝが如く過ぎ去り、はや二ヶ月を待たずして再び故國に足を接するの機を得る事、小女が最よろこびさする所に御座候。念へば過歳ほとんど六春秋、其間何をなせし哉、何を學び〆哉など、今我胸中は無限の感慨にみたされ居候。事を學ぶはむしろ易し、之を實際にほどこしていさゝか世の益に供せんさする、難此事に御座候。時勢の流暢を洞察し、社會の風潮を悟道し、いさゝかの志を盡さんさする、無經驗の小女、東西を顧ふて路途に茫然たるの感いたし申候。向後萬事御教示有之度、今より願おき候。六年前渡米をおもひたちし頃、或外國の友人小女に左の如く申候。汝今文明の米國に數年を過さんさする、われ其結果を恐る泰西の文明は汝の心を震撼ならしめて、他日汝の故國に歸るの日、汝をして日本を侮らしめ、汝の心より愛國心を奪ふべしさ。小女は、今全然同氏無効の言葉を悟り居候。小女は米國の文明にくらまさるゝものに無之、米國の外に歐洲あるを知り　米國の文明其ものゝうちにも、取るべきものも取るに足らざるものも有之ことを承知いたし居候。又又世界到る處我觀察に供するの地は廣しさいへども、何の地か我愛する日本の好土に比するもの有之べきや、我血肉我精神は、日本さ云ふ鼓動に波うち、日本さいふ志想に充され居候。嗚呼我前途あやまりなからしめよさ默考致居候。

昨日英國なる津田梅子様より通知有之、氏の米國を經て來る六月上旬歸帆のよし了承いたし候。多分小女同船いたすべきさ存じ居候。

河井みち子様無事セルマンタオンなるミススチーブンス豫備校に在學、精々御勉强のことに御座候。毎月一回ほどは、モリス夫人なる日本人招待會にて御目に懸り、一夜を同氏方に過す。該には、所謂生れしよりなれたる日本語にて談話し、既往前途を物語り、眞さに心より相慰み申候。先月の會には、丹羽清二郎氏來會にて、一場の福話有之候。氏の基督教信仰の談話は、純潔にして大に小女を感動いたさしめ申候。當夜氏より森田久萬人氏亡去のことを聞き申候。有爲の人逝く悲しきことこれに過ぎるもの無之、氏の在世を追想し、子女を撫育せらるゝ同夫人の胸中を察し申候。世には悲しき事數多有之ものに有之候。小女米國在留のうち我國の變動不少、國民新聞を讀む毎に、かくよろこび、かくかなしみ居候。新聞達する毎に、學課を忘れて、數葉を讀み、再讀し、宮中の無恙を祈り、皇太子殿下の勇威を祝し、故勝海舟翁の人爲をかんがみ、政界のなりゆき、音樂界、文學界、森羅萬象、日本のことしいへば何事も面白からぬは無之候。又女學雜誌上にてフエリス學校にて教育をうけし中島俊子氏の健全を知り、大によろこび申候小女歸るの日、かつて數々訪ひし氏が、横濱太田の家既にむなしく他人の有たることを奇妙の考へにみたされ申候、小女は矢張六年前の小女にて、嘸、齒磨を買ひ塵紙を買ひし小間物屋は、矢張り坂下に無事にたち、其額の光たるおかみさんはもとの如く小女を覺へ居るなるべし。横濱につかば、其かみさんにあいたく候。東海道の中、同じ宿屋にとまり、同じ女中に、米國の話いたさん等おもひ居り候が、萬一如此ことは水泡に歸するならんかとおもへば、うら悲しく候。小女には既往の記臆、舊故の愛、故郷の熱情ほど、世に大切のものは無之、其記臆、其愛其情を未來に發達せしめて、其詩美の純潔を味ひ申度存居候。當地、此頃や春候を催し、野山若緑、時にはへいでんとす。妙奇のことには、昨年迄は小女實際に其野山を樂しみ、其天然を直接に賞味いたし候。今年は何を見ても、第一にいで來る考へとして、此景を、此雲行を、來年日本にて如何に想像するならんと思ひめぐらし居候。

書生妄りに無益に胸中をかき散らし、近況の報申上候、不相變健全にて勉强、卒業前の學期ことにいそがはしく暮し居候。御地委員の皆々様無事御消日のことを希望いたし居候。亂筆御免可被下候匆々。

海舟餘波
再版發賣

片　去

●婦人問題の繁昌　甚だ視す可きに似たり。されど婦人にして其の素養を缺く時は、若し徒らに男子の攻擊のみを婦人の地位を進捗せしむる所以と考ふるが如き時は、甚だしき間違に候。婦人の教養中に於て、第一に大切なるは、其の同情の廣く行き渡る事に候、而して之を發揮する場合に、平衡を失はぬ事に候。臂を攘けて柔性的馮婦を學ぶが如きは、寧ろ自から可笑しき物たるを表明するに外ならず候。我國の婦人たるものは餘りに煽動に乘せず、能く自から思慮を要し候。以上

（國民新聞東京便り五月廿七日）

●高等小學校に看護科設置の議　全國の高等小學校男生は尙武の氣風を養成すると共に他年兵役に服從して操銃發射の實技に慣熟し易からしめんが爲めに大概兵式體操を施行し居れるが果して尙武の實績を舉けんが爲めならば獨り男子のみならず女子にも亦其の素養を與へざるべからず而して其の女子に對する尙武教育の方法は看護科の概要を教授し親しく戰地に臨んで兵士を看護救養するの觀念を喚起せざるべからず女子にして此の心あらば人の母として其の子に教ゆべく人の妻として其の夫婿を奬勵すべく一般女子として社會の志氣を鼓舞激揚する其の効豈淺々ならんや若し一家疾病あり看護を要するに至ては其の人既に家庭に在り是れを他に求むるを俟たず其の便利如何ぞや故に予は今後高等小學校敎課に簡單なる看護の一科を設置せんことを切望すと一教育者は語れり

（日本新聞五月十六日）

●女子囚徒　先般内務省に於て全國典獄會議を開きたる際、女子囚徒に關し、内務省より左の諮問を發したり。

在監婦女其子を乳養せんと請ふときは齡滿三歲に至る迄之を許すの規定なるも滿三歲は長きに失するが如し故に之を滿二歲と改め尙滿二歲以下と雖是等無辜の者を監獄に收容するは事理の宜しきを得たるものにあらざるを以て成るべく地方の慈善團體若くは慈善家の手に移し或は恤救費等地方相當の科目より之を救養するの方法を講ぜしむることゝ爲し萬止むを得ざる場合の外乳兒携帶を許可せざることゝせんとす之に對する意見如何

●女子教育の過激主義　昨今中央の女子教育當局者は大概保守的傾向なれども傍觀論者は往々過激なる改革主義を有し伊澤修二氏の如き湯本武比古氏の如き女子の服裝迄西洋風に改め漢文は一切之れを廢止して其の代りに外國語を採用せんと迄主張し居る由とは五月十五日の『日本』の記する所なるが、伊澤氏と、日本主義の湯本武比古とに、此事あるべしとは、迚も信は措かれぬ事なり。

●神聖を汚す勿れ　女子大學の設置せられんとして、先づ其位地に紛爭を見るは、大學を喰はんとするものなり、女子大學の如き優美にして高尙なるべきものが、其未だ生れざるに先つて早く既に山師の鞏に玩弄ばれんとするは歎すべし、其位地の如き自ら定論あり敢て之を今日に爭ふを要せず、之を口にする者は之を喰はんとする者なり、吾人は女子大學の神聖が、俗人の爲めに汚されんとするを歎ず。

（憲政新聞五月三十一日）

●女學雜誌第四百八十六號　記者は曰く文明の三分の二は虛飾なり西洋人の品行の過半は交際の爲め也と其れ或は然らん然らば日本婦女の品行の十分の九は何歟本號の社説評論の記事觀るべきもの尠なからず去れど日本の巾幗者流が斯の雜誌を愛讀するかと思へば

（扶桑新聞五月十六日）

●女學雜誌第四百八十七號　社説　家庭、文藝、雜錄等の諸欄例に依て清麗悅ふ可し若想議論又た出色

（九州日々新聞五月廿七日）

●早稻田伯の婦人觀

△從來日本の女子は社會の表面に於てこそ無勢力の如く見ゆるも其家庭に於ては隱然一大勢力を有するを見るべし家庭に於て衣食の調理は云ふも更なり兒童の撫育教養皆女子の務たらざるはなし

△然れども社會の進歩と共に紡績會社、機織社會等の起るや全國女子の大部分は之に赴けり故に今後女子職業の範圍を擴張して更らに女子をして職に就かしらるの道を講するは今日の急務なり

△女子に適當なる適職業は多くあるべきも學校教師の職を女子に與ふるは最も適當なり郵便局の帳簿保管其他別に勞力を有せざる官省の職業病院の仕事殊に調劑手の如きは其腦裡の織巧緻密なるを以て男子に勝ること万々なるべし

△世間にては未だ氣の付かざる如く見ゆるが三井白木屋大丸等其他吳服店員は何故に女子を用ひざる乎毫末の懸引なく唯符牒を以て賣買し得る商業は女子を用ふるを其主人に取ては經濟的にして女子に取ては最も得意の仕事ならん其他文學美術宗教等の組織會は婦人に適當なる務にして且つ女子に關する雜誌をして凡て女子の執筆に任すべき也

△女子に職業を授くるは啻に中流以下の婦人のみに限らず上流社會に於ける婦人にも可なり世故變遷の爲に如何なる運に陷るやも知るべからされば上流社會の婦人も豫じめ相當の職業を心得置くこと必用ならん

△漫に男女同權、女權擴張抔を云々するより先つ職業を女子に與へよ女子既に一個の職業を得ば其結婚の後に男子の肩にのみ依るなくして夫妻共稼きとなり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

敢男子に壓迫せられずして自然に女權の擴張は實現せられん

（毎日新聞五月十九日）

●女子大學と伊侯板伯　昨、大隈伯を訪ふ座に女子大學の發起者成瀨仁藏氏あり其他二三の政客伯を圍む談は先づ女子大學の事より始まれり客問ふて曰く『閣下は四下の好機に於て女子大學創立の協議會を開き伊侯をも其會に招じて會見に便せらると報ずるものあり如何にや』と伯呵々として曰く『女子大學まで政治上の陰謀に供せられては堪らぬ譯なり元來斯かる教育事業は政見の如何に拘はらず共同して起すべき公事業にして本校の計畫は伊藤侯も板垣伯も贊成し居られ直接間接に發起の便を計らるゝを故伊侯も板伯も京都に臨會されたりとて何かあらん社會上の行動を政治に結び脊つけて之を限局するが如き習慣は打破せざる可らず』と成瀨氏は『小生が伊藤侯へ案内狀を發して侯の臨席を乞ひたる責任者なり』と語り出で一座皆流傳の邪推深くして磊落の致なきを笑ふ

（報知新聞五月廿四日）

●懷劍と財産　時事新報記者曰く今日の婦人の財産を私有すべきは、昔の武士の妻が、必ず懷劍を懷にしたるが如し。其護身要具なりと。

●帝國婦人平和會日本同盟會　和蘭海牙府の万國平和會議に關係して、万國婦人平和會を開くや、大澤博士を通じて日本婦人に向つて、連合を申込むや、端なく、有志婦人と青木外相との多少の衝突よりして、世上の物議となりたり。讀賣新聞の如きは

露國皇帝の發議に係り我　叡聖文武天皇陛下の率先して贊同を表し給ひし萬國平和會議に向て、我國婦人が開明十九箇國の婦人と共に贊成の意見を提出せんとするに、外相が之に不同意を唱ふるありては、即ち我國は萬國平和會議に反對なりと云ふに異らずして、萬國より我國を平和の敵と見做さるゝに至るも、外相は何の辭を以て之を辯解すべき、外相の無能無力愈よ出て愈よ際涯なしと稱すべきなり。

といひ、また、報知新聞は

萬國平和會議に向つて協力せんとするが如き、或は餘りに出過ぎたる次第に非ざるか、例へば此事業たる、獨り之を海牙府會議一場の來設たるに止まらしむべからず、贊同の各國は皆自ら其影響を其國政府の施設の上に顯すを期せざるべからず、而る時に我婦人諸子は、果して幾何の忠言を我政府に捧げんとするか、而して其捧ぐるの日は、果して幾何の重みもて當局者に聽かるべき信用あり勢力あり並びに主張あることを信ずるか、想ひ來れば吾徒寧ろ寒心に堪へざる者あり、而して女流諸子獨り然らざるか、

といふ。

●醍醐家の慘事　侯爵醍醐忠敬、其兄の子の殺す處となる、これ實に近時の大慘事なり。聞くならく、この侯爵家、忠順老侯を始め、父子三人正妻を有せずと。家庭の紊亂は實に此慘事の因をなす。万朝報は、これによりて、華族社會の戶位紊裂、內、腐敗に滿つるの一例となして、其社會を非難し、時事新報は蓄妾の弊害は、如斯きに至るとありと說く。

●勝伯爵夫人の美事　日本新聞記する處の『海舟逸事』中に、徃年の勝塾の狀態を記して、言、夫人に及ぶ。曰く

こんな風だつたから先生の塾は、塾と云ふよりも、一種の寄宿舍であつた、此の折一同の感心したのは、先生の奧さんださうで、當時先生の地位は極めて低く、それに上の人にはどん〳〵突掛るから、上役の評判もわるいし、時々やめられた事もあつたために、貧窶洗ふが如く、其日の炊米に困つた日もあつたが、先生は少しも頓着せず、どん〳〵書生を養ひ食客を置いた、奧さんも、平氣でよく家政を料理し、書生がいくら亂暴をしても、怒つた顏を見せた事がなかつたで、某書生は先生の罵詈に激昂し、塾を飛び出さんとしたが、奧さんに濟まんから、我慢しやうと云つたさうだ。先生の大業を爲したのは勿論先生の機智大膽によりけれど、亦た內助の功多きに居るを知らなければならん。

●夷狄の文字　女學雜誌、外人不義不往の徒を目して、夷狄の文字を用ゐたるや、女子の友記者は多年基督教の傳播に熱心したる女學雜誌が、此頃意見を改めて、外人を目して夷狄といふに至りたり、これ實に近來の快文字なりといふ。されど、吾人の夷狄と書したる意は、女子の友記者をして快心せしむるものとはやゝ趣を異にするものなり。

●諸新聞紙の女學論　（本誌〆切まで）

◎伏魔女學校（つゞき）　中央新聞五月廿一日了
◎男女の學理（つゞき）　時事新報連載
蓄妾の慘源無學に在り◯富國强兵の基一夫一婦に在り◯
◎女大學評論（自第十五回至第十八回）　時事新報連載
◎女學校巡り　千代田日報五月廿七日以後連載
◎令孃鑑（つゞき）　同連載
戶田幸子◯松平勝子國哉子◯織田綱子
◎夫人の素顏◯大山侯爵夫人の事◯鳩山春子の事　報知新聞連載
◎坂本龍馬の未亡人　同同
◎女傑談話　東京朝日新聞同
アンブリン◯エリ、ザベス女王◯クリスチナ女王◯
◎婦人の懷劍　時事新報五月十六日
◎孰か通にして孰か野暮　同五月十七日

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎多年來の苦心盡力を如何せん◯家内の平和は如何　同　五月十九日
◎社會の品位　同　五月廿二日
◎儲蓄一洗　同　廿四日
◎醍醐家の慘事につき　同　廿六日
◎國民の體力　同　卅日
◎女子伸手の業　報知新聞　五月廿一日
◎女流の品位　同　同廿九日
◎女大學評論を笑ふ　京華日報五月十七日以後
◎日本婦人平和會と青木外相　讀賣新聞　五月十七日
◎日本の婦人平和會に警告す（木下尚江）　毎日新聞　五月廿三日
◎日本婦人平和會と青木外相　京華日報　五月十八日
◎早稻田伯の婦人觀　毎日新聞　五月十九日
◎將來に於ける男女の關係　大阪毎日新聞五月廿五日
◎高等女學校々長會議に於る小說禁止の方針を難ず（後藤宙外）　同　五月廿九日
◎華族名門の家庭　萬朝報　五月三十一日
◎私生兒の父　同　連載

時報

◎學事

●女子職業學校製作品の縱覽　同校にては五月二十日生徒の製作品を陳列して一般の縱覽に供し且つ需めに應じて製作品を販賣せり。

●女子大學校設立に就て　成瀨仁藏氏の主唱に係る女子大學校設立の件は其後伊藤侯大隈伯を始め岩崎澁澤諸氏等の贊成を得愈〻基本金二十萬圓募集中なるが學校設置の位置に就て發起人中議論二派に分れ伊藤侯大隈伯等は大阪に設置せんとの意見を抱き澁澤肥塚氏等は東京に置かんと主張し居る折柄此度大隈伯西遊の途に上りたれば大阪の有志者は非常の熱心を以て運動を始め土居通夫氏等は同市に伯を迎へ大學の位置に關し打合せを爲す筈なりと云ふ。

●神戸市の裁縫講習會　大村兵庫縣師範學校教諭外數名發起となり本年八月六日より同二十七日に至る三週間東京裁縫女學校長渡邊辰五郎氏を聘し神戸市に於て古今各種衣服の裁方縫方に關する講習會を開く筈なりと。

◎會合

●櫻井鷗村送別會　本誌主筆櫻井鷗村は、歐米女子教育視察の爲六月八日、米國へ向け出發するに就き、有志發起して、五月廿六日午後五時より、富士見軒に於て送別會を開きたり。會合する者島田三郎、三宅雄次郎、本多庸一、矢島楫子、松本荻江、三輪田眞佐子、原胤昭、巖谷季雄等を始めとして、三十餘名、席上島田、三宅、巖谷、松本、山本諸氏の別辭を述へられたるあり。

●英國婦人平和會日本同盟會發起相談　露國皇帝の發議により五月十八日より和蘭國海牙府に於て、萬國平和會議を開設するに際し、歐米諸國の婦人はまた万國婦人平和なるものを設立して、和蘭女王陛下を總代に戴き、この平和會議に贊同の意を表するの運動あり。それにつき、同婦人會獨乙協會の副會長セレンカ博士夫人は、日本婦人をも誘說加入せしめんとの意を以て、醫科大學教授醫學博士大澤岳太郎同夫人ユリヤ同氏の許まで書面を送りたるが、これを起因として、鳩山春子、下田歌子、松本荻江等の夫人等、熱心、之に贊成し、大隈伯また之に贊し、取急き電報を以て、海牙府の婦人會議へ贊同の旨を申送りたるが、なほ此上は、日本全國の婦人を糾合して、平和婦人會を起して、世界の同種會と聯合し、會員名簿を作りて万國聯合本部へ通知せんとして、五月廿七日　毛利公爵夫人、鍋島侯爵夫人、大隈伯爵夫人等の名を以て、有志婦人數十名を華族女學校幼稚園に會して、相議り、數多婦人團躰、二三婦人雜誌社、四五女學校より、各二名宛の委員を擧げて更に六月二日を以て、一相談會を開けり。

●令德會　神道金光教會畑德三郎氏首唱して、婦人の爲に令德會なるものを設け、神道を講ぜんとする由にて、五月廿八日神田錦町對次學會に於て、其發會式を擧げたり。會するもの約三百名、國分操子、奧山テル子女史等は、會員の主なるものなり。來賓には重野博士、稻葉管長等ありたりといふ。

●京都佛教婦人會　にては五月十四日總裁久我圓督尼公以下三百餘名會合して、極王法林寺に大會を開きたり。

●仙臺婦人會　にては今回白石の火災へ千頭夫人錦戸夫人等主唱となり合計金十七圓五十錢を義捐したるが尙ほ同會は今後大に慈善事業を擴張するの計畫にて千頭會長は主として盡力計畫中なりと云ふ

●上田婦人教會の義金　信州上田町にては孤兒二人棄兒二人身寄なき窮民（老疾者）一人を救助室に於て救助し來りたるが恤救規則及町費に依る公費にては衣食は勿論教育する事能はざるより上田婦人會にては會員より慈善金を募り本年より通學する棄兒一人教育費の內へ若干の義金をなしたりと云へるが尙馬場全町長は慈善會なるものを組織せんとて全婦人會の贊同を求め居る由而して慈善金募集の方法は慈善販賣店を設け若くは音樂會を催し一定の入場料を得んと云にありと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◉人事

●曉星園主本郷定次郎氏　明治二十四年以來、曉星園といへる孤兒院を起して病弱の雛を提けて、これに從來したる同氏は、宿痾遂に起たず、五月十八日、東洋內科病院に於て、永眠し廿日青山墓地に葬る。其畧歴は左の如し。

本郷定次郎氏畧歴

故育兒曉星園主本郷定次郎氏は敦賀の人にして慶應二年十一月二日を以て生る、君が家は酒造を以て業とし、能登屋といひて家門高く資亦饒に地方名望家の一たり。君には一人の兄と四人の姉あり、君はその末子にして、性來極めて虛弱なりしも、饒なる家庭は君をして更に憂ふ所あらしめざりき、長じて四歲母君は最愛の君を殘して逝けり、五歲に至り鄕黌に上りしも虛弱遂に堪へざりければ十一歲の時京都に送られ專ら保養せられぬ、爰にあること三年即ち十四歲の時再び君を驚せしものあり何ぞや家嚴亦亡して北邙一片の烟となりしとの報に接せるなりき、人生不幸尠からず然れ共慈愛なる父母を喪ひしより不幸なるはあらず、君は未だ人の何物たるを知らざる先にまづこの大不幸に遭逢せり、君の孤兒の爲めに萬斛の淚を灑き、身を棄てゝ顧みず、遂にその天職の爲に身を亡ふに至りし所以のもの誠に故なからずんばあらず

父君の不幸によりて一度歸鄕し居ること一年にして再び京都に至り磯田商店に於て商業を見習ひたりしが、敏活機を誤まらず大に店主の信用を得幾もなく重要の地位に進められ居ること五年また敦賀なる家兄の永逝に逢ひぬ。明治二十年の春に至り君は飄然として東京に至り具に辛酸を嘗め、二十一年一月遞信省雇となり、二十一年十月數寄屋橋敎會に於て洗禮を受けたり。此頃よりして君は孤兒に對する同情もだし難く、神田に一小屋を借り筆墨紙等を販賣せしめぬ、此頃一日一錢のパンにて飢を凌ぎしことさへありしといふ。かくて幾多辛酸の後京橋銀座一丁目に小屋を借る始は信者を會する目的なりしが後遂に孤兒院となし、廿四年二月貧兒救育曉星園と名けたり、これ今日の曉星園かよりて起りし濫觴とす、後貧兒の爲めに職を辭し靴磨となりいよ〳〵窮困の生涯を送れり、仝年六月廿三日秋元秀子と婚儀を擧ぐ間もなく麻布龍土町に移轉し後青木子爵に知られて仝氏の開墾地なる那須野の原に移つり、後更に三島開墾地に於て農業に從事しその間布哇に航して仝地の事情をしらべ歸朝して一層院の爲めに盡し、事業やゝ熟するに當り東京神田に商業部を開き薪炭等その他日用品を販賣しぬ、三十一年九月十一日更に橫濱商業部を開き本年一月頃より肺に苦痛あり橫濱に於て醫に療をうけしも東京に至りてより高田耕安氏の診察をうけ四月卅日に東洋內科病院に入院せしが藥石その効なく五月十八日午前八時十五分遂に永眠し籍を天國へ移せり享年三十有四歲

●美談一束　節操を守りて癩病の夫に仕ふ、臺灣八里坌保正發の妻阿春（臺灣日々新聞五月十日）〇軍人の寡婦殖産の道を聞く、福島縣耶麻郡松山村長谷川イセ（國民新聞五月廿五日）〇孝眞一門に集る　仙臺北二番町國分平翁の一家（東北新聞五月十八日）〇感ずへき少女　愛媛縣越智郡岡山村大字宗方市川三木代の二女ヒサ（十二年）〇孝行の少年芝白金志田町六十番地松本高次郎三男孫三郎（十二）（千代田新聞五月二十八日）

●臺灣婦人との結婚　臺北縣に奉職する水野承一郎と云へる人は曾て臺中の官衙に奉職中宛里なる街長某（此土人は軍政中早くも散髮したるもの）の周旋にて鹿港のさる身分賤しからざる家より妻を貰ひ受くる約束整ひ內地の式に從ひ帶代として六十圓の金を渡し双方相談の上黃道吉日を撰みて結婚をなし爾來琴瑟を鼓するが如く最と睦まじく暮し居れるよし

●夫婦受賞

栃木縣芳賀郡久下田町

早瀨喜三郎

同人妻　なみ

資性溫厚篤實明治二十二年以來母チツ中風症に罹り起居飲食一に夫妻の扶掖に依るを以て生業に專なるを得ず之れが爲め家計益々貧困に陷ると雖も互に奮勵して商業を營み僅かに得る所の利を以て藥餌を進め甘旨を供し常に病者を慰籍し承歡懈らざること玆に十有餘年一日の如し其行爲洵に奇特とす仍て爲其賞金二圓を下賜す

明治三十二年五月廿五日

栃木縣知事　正五位　溝部惟幾　印

◉雜事

●砲兵工廠と女工　各工業は製品の賣行不活潑なるにも拘らず原料及び賃銭は少しも下落せざるのみならず賃銭は却て往々騰貴の氣味あるより資本家は概して頗る苦心の體なるが小石川砲兵工廠の如きは男工は賃錢高く又將來に於て騰は勿論の事なりとて先般より力役以外には女工を用ふるに至りし由にて女工は賃錢も割合に安く一種緻密の性質もあり且つ賃錢其他に就て苦情少なき等の點に於て大に男工に優る所あり是れ迄小石川牛込邊の抄紙工場は重もに女工を用ひ居りしも砲兵工廠の改革のため大に女工の缺乏を來たし爲めに一般に賃錢の騰貴を來たさん模樣なりといふ。（時事新報）

●女學雜誌　第四百八十六號（四月廿五日發兌）の社說には外人の日本に來るは其本國の交際社會に猫の面を冠りて窮屈に耐へず本來の獸慾を逞ふせんとするの郡より說き起して將來の交際上心得へき事を論じたり其他の紀事例の如く高尚にして家庭上有益なるものならざるはなし躰裁の優美にして印刷の詳明なる亦雜誌中の王なるべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

訂正增補

豫約出版廣告

四版
大日本人名辭書

大本全壹册
定價金拾圓

（表附）皇統系圖、親王家系譜、藤原氏系圖、平氏系圖、源氏系圖、北條氏系圖、新田氏系圖、足利氏系圖、織田氏系圖、豐臣氏系圖、德川氏系圖、皇學家譜、儒者學派、醫師派譜、武術諸流系圖、刀工系圖、金工系圖、佛工系圖、宗門系圖、繪畫諸流系圖、蒔繪師系譜、猿樂家譜、假面工系譜、相撲、淨瑠璃總系圖、長唄系圖、俳優系圖、茶流系圖、大日本偉人年表

此書ハ上ハ帝王將相ヨリ、下ハ士庶、才媛、工藝諸雜家ニ至ルマデ、苟モ世ニ名アルモノハ網羅セサルナシ、蓋シ本邦古來ノ人物ヲ知ラント欲セバ此書ヨリ精且便ナルモノアラサルナリ、是ニ於テ乎近時全國大小學校ニ於テ歴史修身等ヲ講話スルニ此書ニ據ルモノ少シトセス、然ルニ前版賣盡シテ後歳月既ニ久シ、江湖缺乏ニ苦ミ、市價非常ニ騰貴ス、故ニ弊社ハ茲ニ前版ノ誤謬ヲ訂正シ且刀工、蒔繪師、浮世繪師、假面工其他近年長逝セラレタル大家ノ傳紀數千名ヲ增補シ、第四版ニ着手シ、非常ノ廉價ヲ以テ豫約ニ應セントス、願クハ大方諸彥ノ此擧ヲ賛セラレンコトヲ、

第一　此書定價金拾圓ニシテ豫約價左ノ如シ
　本年六月二十七日迄一時入金ノモノ　四圓五十錢
　本年六月ヨリ十一月迄毎月壹圓ツヽ入金ノモノ　六圓
　但東京市外ハ別ニ送本料ヲ申受クヘシ、其割合小包郵便料十里以內十五錢、百里以內廿八錢、百里以外五十六錢

第二　豫約申込期限ハ本年六月二十七日マテトス（但豫約ノ御申込アルモ期日迄ニ豫約金御拂込ナキトキハ御破約ト見做ス）

第三　此書ハ六號活字廿四字詰卅八行三段組紙數約二千頁ニシテ洋裝及背角革クロース表紙ニ製本シ來ル十二月出來ノ事
　但見本ヲ要セラルヽ方ハ郵券二錢ヲ添ヘテ申込マルベシ

明治三十二年六月

東京市京橋區彌左衛門町七番地
合名會社 經濟雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治二十五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治二十五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY